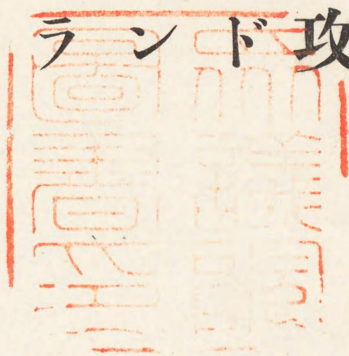
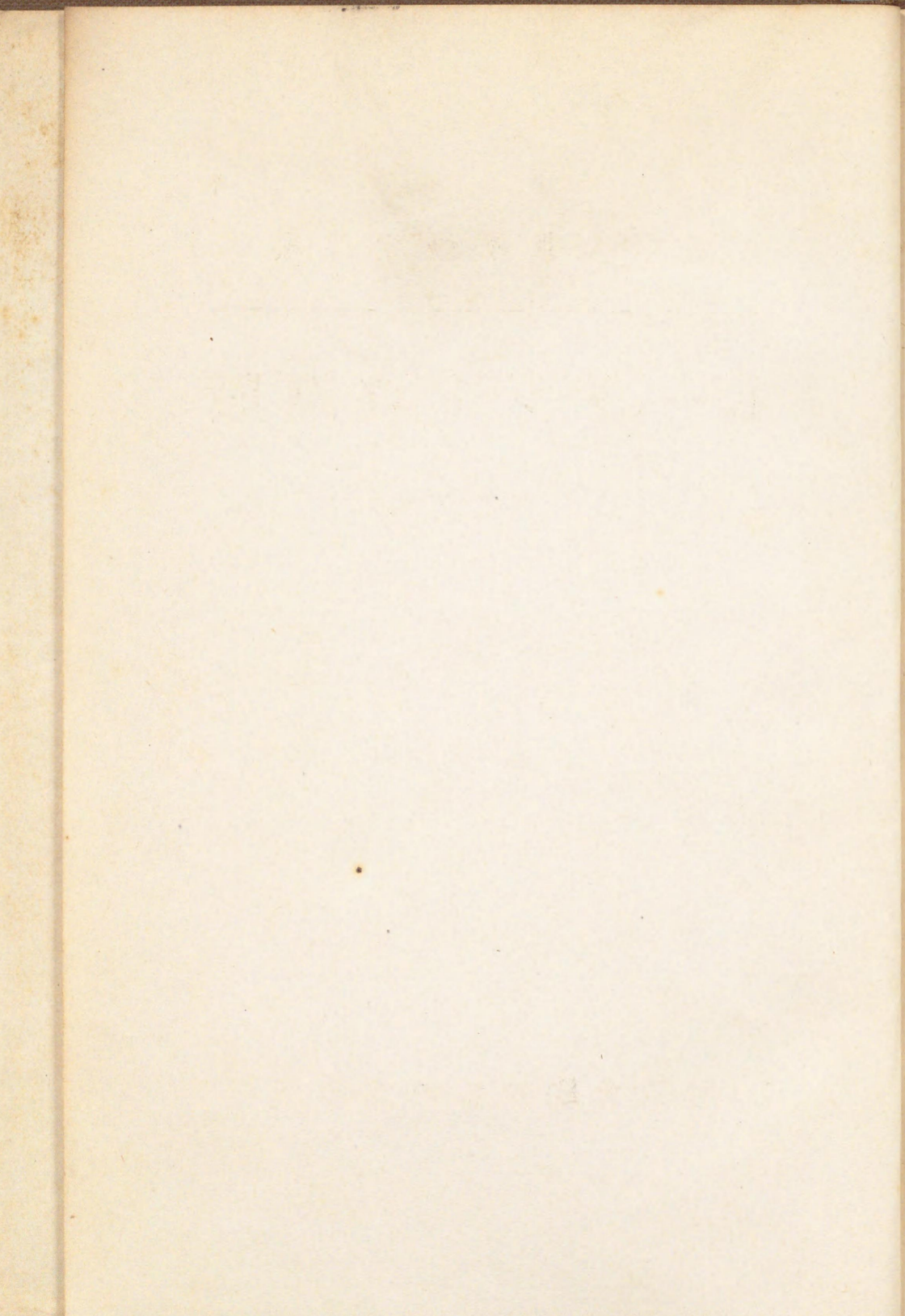


陸軍大學校研究部編

ポーランド攻略戰



陸軍大學校將校集會所



序

波蘭攻略戰は第二次歐洲戰爭の緒戰にして、
之が研究は近代戰の特質を知るに甚だ重要な
りと認め、茲に當校研究部をして本書を編輯せ
しめたり。

2600年7月20日

陸軍大學校幹事 西 原 一 策

GG 721

H9

國立中央圖書館藏

圖書集成



I 種

W



1200600118512

國立中央圖書館藏

目 次

はしがき

略字参考

第一	戦争の原因	1
第二	開戦前の外交交渉.....	3
第三	波蘭軍の兵力、部署及企圖	9
	A. 兵力、編制及裝備の大要	9
	B. 波蘭軍の企圖及部署	11
第四	獨逸軍の兵力、部署及企圖	15
	A. 兵力、編制及裝備の大要	15
	B. 獨逸軍の企圖及部署	16
第五	作戦經過	21
第一期	突破 (9月1日—6日)	21
1.	突破經過の概要	21
2.	9月1日—7日の作戦經過に關する	
	獨逸軍總司令部日々の發表	30
第二期	追撃 (9月7日—9日)	45
1.	追撃經過の概要	45
2.	9月7日—9日の作戦經過に關する	
	獨逸軍總司令部日々の發表	51
第三期	決戦 (9月10日—14日)	57

57	附録第五 對波蘭作戰間ヒットラーの行動圖 ...
	附録第六 參考書目
62	寫 眞 (1) 波蘭軍自ら破壊した Dirschau
71	(Danzig 南側) の橋梁 (川は
71	Weichsel
	(2) 爆撃された波蘭某飛行場
77	(3) 破壊された橋梁 (Beskiden 山地
	にて)
85	(4) Bromberg 前面の波蘭軍陣地線
85	其一, 其二
	(5) Tarnow 附近 Dunajec 川獨逸軍
86	戦車隊の通過
95	(6) Tucheler 荒地に於ける獨逸軍
96	の待機
97	(7) Pultusk 附近 Narew 川
103	(8) 道路交叉點で戦闘中の獨逸軍
	戦車
105	(9) Modlin 附近 Weichsel 川
	(10) Wyschkow 附近 Bug 川
109	(11) 獨逸軍低速度連絡機 (俗に Storch
111	即ち鵠の鳥と謂ふ) Rawa Ruska
	の町内に著陸
115	(12) Warschau に於ける Hitler の閱兵

1. 決戦過程の概要	57
2. 9月10日—14日の作戦経過に関する 獨逸軍總司令部日々の發表	62
第四期 包圍殲滅(9月15日—20日)	71
1. 作戦経過の概要	71
2. 9月15日—20日の作戦経過に関する 獨逸軍總司令部日々の發表	77
第五期 Warschau 及 Modlin の占領 (9月21日—10月5日)	85
1. 作戦経過の概要	85
2. 9月26日—10月1日の作戦経過に関する 獨逸軍總司令部日々の發表	86
第六 蘇軍の波蘭進駐	95
1. 波蘭に對する蘇聯邦の覺書	96
2. 作戦経過に関する蘇軍の發表	97
第七 戦果	103
附 録	
附 録 第一 波蘭の地勢其の他	105
附 録 第二 獨逸及「ソヴェート」社會主義共和國 聯邦間の不可侵條約	109
附 録 第三 獨蘇國境及友好條約	111
附 録 第四 對波蘭作戦間獨逸各種飛行隊活動 の一例	115

は し が き

1. 人口三千萬自ら強國を以て誇つた波蘭が獨逸軍の電撃的な攻撃を受けて僅に三週間の間に土崩瓦壊滅亡して了つた事は近代戦を研究する者の看逃し得ない事である。
2. 獨逸軍の波蘭作戰に就ては既に獨逸にも色々な本が出版されて居るが、何分にも今日も尙戦争が進行中であるので、何れの本を見ても同巧異曲で、兵力武器等肝腎な事は百方手段を盡しても中々明にする事が出来ないのは残念である。
3. 然し乍らいつ迄も資料の手に入るのを待つて居る譯にも行かないので、一先づ大體獨逸軍司令部の發表を主として纏める事とした。従つて將來資料が出るに従つて色々修正を要する點も表はれて來るものと信ずる。尙波蘭作戰に關しては獨逸軍は相當順調な経過を辿つた關係もあり、獨逸軍の發表は先

波蘭全圖（地名索引用）

- し
せ
流
は
明
革
今
を
に
年
る
の
固
よ
が
8. 本作戦に伴ふ蘇聯邦の行動は相當必要と認め、其公報を採録した。又獨逸間の諸條約も参考の爲併記した。蘇軍の發表振と獨逸軍の發表振等を比較すると、色々の點に於て相互の差異が明瞭に表はれて居て興味深いものがある。
 9. 尙地名索引の便宜の爲に卷末に附圖及地名索引を附記した。但地名中若干のものは割愛したものもある。
 10. 地形其他理解の容易にもと寫眞若干を添へた。
 11. 本書編纂に方り參謀本部當局、獨逸駐在陸軍武官室及日本駐在の獨逸武官室が種々資料を提供せられた好意に對し謝意を表す。

2600 年 7 月 16 日

陸 大 研 究 部

づ信賴し得るとは一般の定論である。

4. この簡単な一書が「導き」となつて將來新しい戦争術が色々の部門に於て、急速に研究せられる事を望んで已まない。
5. 思ふに總てのものは水の流れるやうに流轉して已まず、兵術も亦其選に漏れる譯には行かないのである。小銃や蒸氣機關の發明が戦争術は固よりの事世上萬般の事に大革新を齎し、幾多の國家の興亡を見たやうに、今日は飛行機及戰車の發達がそれと同じ事を求めて居るのである。
6. 波蘭滅亡の跡を尋ねて過去の戰績の花に酔ふて新しい改善に努力しない軍隊は、百年臍を嚙むも及ばない目に會ふ事を痛感する次第である。
7. 本書の記述は達意を主とし、努めて平易の文章を用ひた。又地名、人名等固有名詞は固有の綴を用ひた。尙翻譯は既存の材料によらず獨逸軍發表の原文により新に當部員が行つたもので忙餘誤謬を保し難い。

第一 戦争の原因

波蘭戦争は、其端を Versailles 條約に發する。

當時敗戦の獨逸は波蘭の爲に廣大な土地と人口とを失つたが、中でも獨逸人の夢にも忘れる事の出来ないのは、人民投票の結果等に頓著なく、上部 Schlesien の工業地帯や、實質的には獨逸都市である Danzig 港を挽ぎ取られた上に、波蘭廻廊地帯を作つて東 Preussen (東プロシヤ)を獨逸本國から分斷して了つた事であつた。

爾來波蘭は英佛側に在つて、獨逸包圍陣の一環を成し、獨波兩國の關係は極めて險惡な状態を續けたのであつたが、Hitler が獨逸の政權を握るや、彼は國內の整備と國力の充實とを急務とし、1934年波蘭の巨人 Piłsudski 元帥と10年間の不侵略條約を結んだのであつた。

しかしながら波蘭の獨逸排撃の努力は、或は Danzig 港の疲弊政策と云ひ、或は在波蘭獨逸人の壓迫と云ひ、陰に陽に續けられて居た。

略字参考

本書に使用した略字は制式軍用略字はその儘用ひてある。

即ち	A.....軍
	C.....軍團
	D師團
	KB騎兵旅團

但次のものは便宜上用ひたものである。

軍集團.....	GSD
装甲軍團	SKGD
装甲師團	SKS

又時刻を記すのは便宜上次の例による。

六時二十五分06²⁵'

數量を示す數字は通常括弧内に入れてある事は規定の通である。

第二 開戦前の外交交渉

波蘭に對する獨逸の新たな外交交渉の皮切は Sudeten 問題解決の直後、即ち 1938 年 10 月の事である。其時の條件は Danzig を政治的には獨逸に屬せしめ、經濟的には依然波蘭の優越を認め、尙波蘭廻廊を横切る治外法權の自動車道路及鐵道を設くる事、並に現在の獨波兩國間の國境を決定的のものと認め、現行の獨波不侵略條約を更に 25 年間延す事を含むものであつた。

超えて 1939 年 1 月 Hitler は波蘭外相 Beck 大佐の伯林來訪を機とし自ら此條件を持ち出した。

然し乍ら當時 Pilsudsky 元帥は既に死し、其の事實上の後繼者である Rydz-Smigly 元帥を始め、波蘭政府の要人達に反獨的氣勢強く、獨逸の提言は容れられなかつた。

其後波蘭内に獨逸人虐待事件が頻々と起つたので、獨逸政府としては事態を放任しておく譯に行かず、3 月 21 日改めて波蘭側の注意を喚

所がナチス獨逸の隆々たる勃興は相踵いて
奧太利及 Tschecho の併合に成功し、茲に Hitler は
其餘勢を驅つて Velsailles 條約の不正を矯正し、
且は獨逸の生存圏の確立の爲に國民多年の熱
望である波蘭問題の解決に乗り出したのであ
る。

し、
國
ck
在
必

次に對し Hitler は、8月23日返書を以て獨逸間の危機の真相を説明し、波蘭の態度は英國の支持に因るものであるとの見解を述べ、如何なる困難を排しても獨逸の生活權を擁護する旨を答へた。

次
つ
と
起
限
政
に

之より先英佛は蘇聯邦と結んで對獨包圍陣の結成に努めたが、成功を見ない間に獨逸は多年の反蘇的態度を一擲して、素早く蘇聯邦と不侵略條約を結び、(8月23日)世界の耳目を驚かせた。

國
府
あ
歩
説

かくて英獨間の關係は惡化の一方を辿つて行つたが、8月25日英國大使 Henderson は Hitler に面會し、英國の對波蘭援助の義務は獨蘇間の新條約によつて何等變更を來さぬ旨を通告したが、Hitler は獨逸の死活に係る對波要求は斯る通告では變化はないと應酬したが、此日英國は遂に英波相互援助條約に調印した。此間 Hitler と佛國首相 Daladier との間に親書の往復があつたが、之も緊迫した情況を緩和するに何等役立たなかつた。

起し、成る可く速に問題の調整の必要を力説し、Beck 外相の伯林來訪を求めたが、當時既に英國の波蘭抱き込み策が功を奏して居たので Beck 外相は伯林には行かずに反對に倫敦に赴き、在伯林大使をして却つて獨逸側に對し自重の必要ある事を警告せしめたのである。

かくて時日の経過と共に獨波間の關係は次第に緊張し、波蘭内に獨逸人虐殺事件等が起つて物情騒然たる時 Danzig 市に於て Danzig 市と波蘭との双方の國境税關監視吏間に衝突が起り、波蘭は8月8日 Danzig 參議院議長に對し期限附の通牒を送つた。茲に於て翌8月9日獨逸政府も伯林駐在の波蘭大使に對し波蘭の行動に關し注意を促した。

かくて事態は益々急迫したが、8月22日英國首相 Chamberlain は Hitler に親書を送り、英國政府は波蘭に對し同盟の義務を行ふ固い決心である事を述べ、獨波間の紛争を平和裡に外交交渉により國際的保障の下に解決すべき事を力説した。

る。

9月1日の夕方、英佛兩國の大使は、獨逸の外相 Ribbentrop に面會して同文の通牒を交付して直に獨逸軍隊を波蘭から撤退すべきを要求し、容れられない場合には、波蘭に對し條約上の義務を果す旨を通告した。又伊太利首相 Mussolini も、即時停戰して國際會議の開催を提案したが、英國は之を一蹴した。

獨逸膺懲に關する英佛の決意は極めて堅く、兩國大使は9月3日獨逸政府に對し、9月1日の通牒に對する確約を 11^{200'} 迄に得ない場合には兩國の間に該時刻以後戰爭狀態の存在する旨を傳へた。

獨逸側としては固より之に返答する筈もなく、かくて第二次歐洲大戰は開始せられたのである。

英國政府は8月28日聲明を發し、Hitlerの8月25日の聲明に對し、波蘭政府が獨逸と直接交渉の意志ある事を傳へたので、獨逸政府は8月30日迄に全權を有する波蘭代表の到來を期待する旨を答へたが、30日になつても波蘭代表は伯林に到著せず、而も其間波蘭が軍隊の總動員を令した旨の報告を得て形勢は俄然緊張した。

8月31日午後、在伯林波蘭大使は獨逸外相を訪ねて、波蘭政府が獨逸との直接交渉に關し、好意を以て詮議中の旨を傳へたが、獨逸外相は同大使に對し、獨逸の提案に就て交渉する權限を有するかと尋ねた所、同大使は之を否定した。

そこで獨逸政府は此危機一髪の際、空しく外交交渉に時日を経過するの危険なるを認め、8月31日夕曩に25日英國大使に示した交渉の基礎條件十六箇條を發表し、且波蘭軍がGleiwitzの無線放送所を襲撃したと稱し、既に十二分に戰略展開を終つて待機して居た陸海空の三軍に對し、9月1日未明を以て斷乎波蘭に進入を命じ、茲に波蘭戦争の幕が切つて落されたのであ

第三 波蘭軍の兵力、部署及企圖

(A) 兵力、編制及裝備の概要

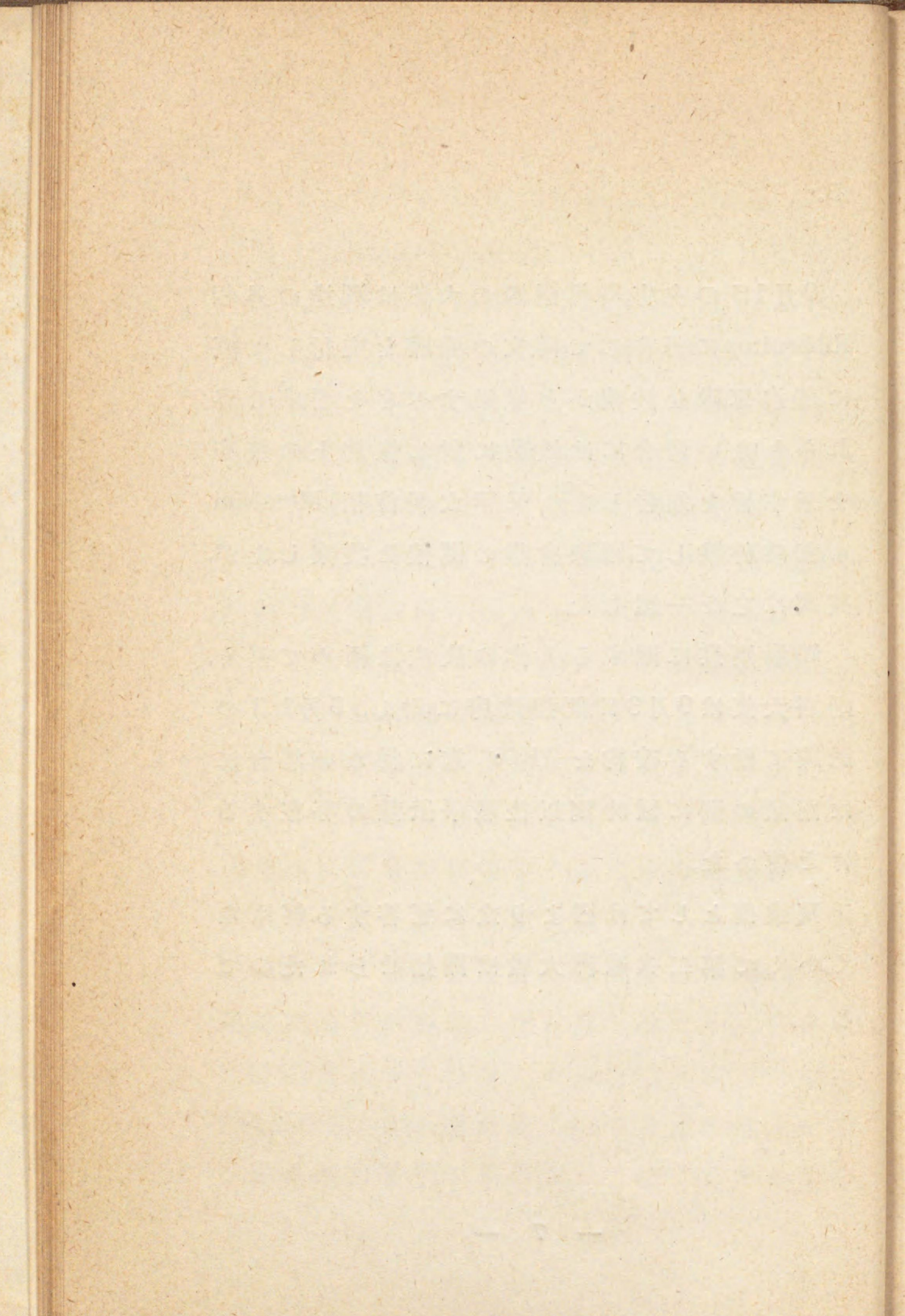
波蘭の地勢及位置は國防上甚だ困難な爲、平時から軍備の爲に其財政に比し、不相應な支出(約50%)を續けて居た。

其平時兵力は陸軍に於て

歩兵師團	30	(師團の砲兵聯隊は野砲2大隊) 輕榴(10.5cm)1大隊)
騎兵旅團	約10	
重砲兵聯隊	10	

て其總兵力歩兵聯隊 90 (274 大隊), 騎兵聯隊 40 (210 中隊), 砲兵聯隊 44 (152 大隊)であつたが、其財政が豊かで無く、工業力も亦十分でない爲、軍の近代化は不十分で機械化兵團の如きも不完全なもの 1 箇を有する丈けて、戦車大隊全部で僅に 8 大隊を有するに過ぎなかつた。

元來波蘭は其地形の特質上主として其騎兵を重要視し、機械化部隊は其泥濘地の關係上到



露人 Uklaina 人等の混合で、兵員の約40%が異民族である關係上、團結力が弱い事と統帥部の能力の低い事とであつた。

又波蘭軍の最高指揮官 Rydz-Smigly 元帥も決して有能な指揮官ではなかつた。

築城は近年 Schlesien の舊獨逸領の中央を南北に貫いて Warthe 川の線に沿つた地域に西面して、又北方 Narew 川の線に北面して Beton 製火點を配する築城線の構築に著手したが、其規模、結構共に薄弱で、其工事も漸く緒に就いたばかりで、概して薄弱な一線を成すに過ぎなかつたのは、波蘭の平素の豪語に對照して甚だ怠慢と謂ふべきである。

又海軍は Hela 半島の Hela 港及 Gdingen 港を根據として驅逐艦、潜水艦各5を基幹とする微弱なものを持つて居るに過ぎなかつた。

(B) 波蘭軍の企圖及部署

波蘭は東に蘇聯邦を控へ、西に新興獨逸と境

底十分な活動は不可能であるとの見解であつた。

波蘭軍の戦時動員兵力は、一倍半動員として約45師團(兵力150萬乃至200萬)が最大限と判断せられた。

飛行隊は飛行6聯隊を3飛行團に編合してゐた。波蘭の所有飛行機の總數は約1700機と唱へられ、其内爆撃機約180機、驅逐機約400機、偵察機約120機等であるが、多くは舊式機であつた。

防空には機械化された防空聯隊1、獨立防空大隊6を有し、重・輕高射砲各約200門を持つて居たが、其數及素質は共に不十分である。

波蘭軍の兵員の素質は一般に低く、愛國心に於ては相當見るべきものがあつたが、其軍事訓練は低かつた。而も波蘭人は感情的で、事態を冷靜に觀察する沈著を缺き、従つて獨逸の戦力の判断の如きも正鵠を失し、矯慢自尊の風があつた。

特に波蘭軍の弱點は、兵士が波蘭人以外に白

et
に
あ
格
つ
寺
の
が
務
主
逸
軍)
寺
と
阻止す。

西南軍 (Tschenstochau 附近)

任務は獨逸軍の侵入を阻止し、且上部
Schlesien の工業地帯を掩護す。

南方軍 (Krakau 附近)

任務は西南方及南方に對して獨逸軍
の侵入を阻止す。

其他東方には蘇聯邦に對する國境陣地帯に
若干の兵力が配置されて居る。

總豫備 (Warschau 附近)

以上の全兵力合計約40師團、兵力約800,000内
外である。

即ち波蘭軍は其の主力を西方遠く推進して
成るべく長く廻廊地帯及 Schlesien 地方重工業
地帯を確保しつゝ、英佛側の協力を期待したの
である。

然し元來波蘭軍の主力は蘇聯邦に對する爲、
Brest 南北の線に東面して配置されて居たので、
之を獨波國交の緊張に伴つて急に西に轉向さ
せ、次で獨蘇不侵略條約の締結を見て、再びその

を接し、而も南方の Karpaten 山脈及東方の Pripet 河畔の大濕地帯以外は地形上敵を阻止するに足る要線なく、其國防的立場は極めて困難であつた。特に獨逸からは北・西・南の三正面を戰略的に包圍せられて居り、之に對する作戰は至つて困難であり、波蘭の頼む所は一に英・佛が適時に救援して呉れる事であり、又一つは惡天候の爲に高度に機械化されて居る獨逸軍の活動が阻まれる事であつた。

8 月末波蘭軍は大體次の如く戰略展開に努めた。

北方軍 (Mława 附近、其一部は Suwalki に在り)

任務は東 Preussen から侵入する獨逸軍に對し首府 Warschau を掩護す。

廻廊軍 (Thorn 附近、軍司官 Bortnowski 將軍)

任務は波蘭廻廊を掩護す。

Posen 軍 (Posen 附近、軍司令官 Kutrzeba 將軍で最大の軍である)

任務は西・北・南に對し獨逸軍の侵入を

第四 獨逸軍の兵力、部署及企圖

(A) 兵力、編制及裝備の大要

獨逸陸軍の平時兵力は當局の發表によれば、
1933 年春

歩兵師團	(Infanterie-Div.).....	39
裝甲師團	(Panzer-Div.)	5
輕師團	(Leichte-Div.).....	4
山地師團	(Gebirgs-Div.).....	3
計		51 師團

と稱して居たが、動員時は約 130 師團と豫想せられた。然し開戦の場合、東方に攻勢を取る際にも其内相當の兵力を西方に配置する必要ある事は勿論である。

師團〔獨逸軍師團の編制の大要は「軍隊指揮」(陸大 2596 年翻譯出版) 附記に在り〕は通常 3 箇を以て軍團をなし、裝甲師團(SKS)は軍直轄とするも時として軍團に配屬せらるゝ事がある。空軍は

一部を東に歸す等部隊の移動混亂を極め、動員亦完結せず、萬事不準備の間に獨逸軍の電撃的な攻撃を受ける事となつたのである。

a. 陸軍

陸軍は陸軍長官 Von Brauchwitsch 上級大將(參謀總長 Halder 砲兵大將總指揮の下に南・北 2 箇の軍集團(GSD)を編成した。

其指揮官及兵力の概要次の如し。

南 GSD 司令官 von Rundstedt 上級大將

參謀長 von Manstein 中將

14.A (約 12 師團)

軍司令官 List 上級大將

10.A (約 20 師團)

軍司令官 von Reichenau 砲兵大將

8.A (約 9 師團)

軍司令官 Blaskowitz 歩兵大將

北 GSD 司令官 von Bock 上級大將

參謀長 von Salmuth 中將

4.A (約 10 師團)

軍司令官 von Kluge 砲兵大將

3.A (約 8 師團)

軍司令官 von Küchler 砲兵大將

外に裝甲師團(SKS) 4 乃至 5 箇使用せられ、其

1939 年春 Tschecho 併合以來其組織を改め、全軍を 4 空中艦隊に分ち、第一線機は約 8,000 機で其約半數が重爆撃機であつた。

獨逸軍の特長は Friedlich 大王以來の赫々たる歴史と傳統とを誇り、特に統帥部の傳統長く而も能力高く、兵員は志氣旺盛で、國土恢復の熱意に燃えて居た事である。特に獨逸軍の強味は其陸・海・空三軍の指揮が一手に統一されて居る事と、其裝備が三軍共に至つて新鋭強剛であり、空軍及裝甲兵團等近代的軍備が高度に發達して居る事と、統帥思想が舊套を脱し斬新である事であつた。

(B) 獨逸軍の企圖及部署

1. 獨逸軍の作戰方針

獨逸軍の作戰方針は Weichsel 川の西側地區に在る波蘭軍の主力を包圍的に攻撃し其退路を遮り、之を殲滅するに在つた。

2. 部署

c. 海軍

海軍は Albrecht 海軍大將麾下の東海艦隊を以て開戦前から Danzig 灣を封鎖した。

d. 兩 GSD の任務

南 GSD

主力軍たる **Reichenau 軍**を以て Kreuzburg 附近の地區を發し東北方 Weichsel 川に向ひ突進する。

List 軍は Reichenau 軍の右翼を掩護する爲に上部 Schlesien からと西 Beskiden から東に前進し、先づ同方面の波蘭軍を拘束し、後 Slowakei から北面して進入する部隊と協力して敵を包圍し爲し得れば敵の東方への退路を遮斷する。

Blaskowitz 軍は Reichenau 軍の左翼を掩護する爲に Breslau の東を同じく一般方向を Warschau にとつて梯次して進み、Posen の地區に在る波蘭軍主力が Reichenau 軍の翼側に向つて攻撃した場合には之に對應し之を防止する。

北 GSD

の主力は集結して von Reichenau 軍(10.A)に又其の一部は各 List 軍(14.A)及 von Kluge 軍(4.A)に配属せられた。(但し von Kluge 軍の SKS は後 von Kuchler 軍(3.A)に轉属された。)

b. 空軍

空軍は Göring 元帥(參謀總長 Jeschonnek 少將)總指揮の下に Berlin 及 Wien の兩空中艦隊を用ひ、先づ速に波蘭の空軍を撃滅し、制空權を得んとした。

第1 空中艦隊

司令官 Kesslerling 航空兵大將

第4 空中艦隊

司令官 Löhr 航空兵大將

其兵力約 250 中隊、約 2500 機で其内譯概要次の如し。

重爆撃機	1,600
輕爆撃機	300
戦闘機	150
偵察機	500

第五 作戰經過

第一期 突 破 (9月1日—6日)

1. 突破經過の概要 (挿圖1—4)

既に記した通り獨・波間の關係は外交交渉を以て到底打開する事不可能なる狀況に至つたが、獨逸は遂に戰爭を決意し、波蘭が獨逸領 Gleiwitz の無線放送局を襲ひ、且獨逸領を砲撃したと稱し、既に周到に準備した兵力を以て9月1日 05⁴⁵' 波蘭進入を開始した。

南 GSD

南 GSD に於ては 14.A は其外翼に在つた「山地部隊」と Slowakei 軍隊の一部とを以て突然 Beskiden 山地の出口を奪つたので、之によつて Märtsch-Ostrau—Ratibor の線から Krakau に向ふ部隊は大なる支援を受ける事となつた。やがて Neu Sandez が獨逸軍の手に歸したので、波蘭軍は著しく南翼の危険を感じ、9月6日古都 Kra-

Kluge 軍を以て最短期間に東 Preussen との連絡を恢復し、Bromberg と Graudenz 間で Weichsel 川を渡河し、東 Preussen から Graudenz に來援する部隊と共に一般方向を東にとり南 GSD の北方翼と連繫を求める。

Küchler 軍は東 Preussen から Narew 川及 Bug 川を超えて Weichsel 川の東で Reichenau 軍と連繫を求め、且 Warschau を東から包圍する。

若し波蘭軍が Weichsel 川を超えて退却し得た場合には San 川及 Bug 川の東で之を捕へる事を努める。

4.A は既に9月2日 Brahe 川の線を超え、9月3日には早くも Graudenz 西南方の Weichsel 川に達した、9月4日 Kulm 附近で Weichsel 川を渡河したが、Hitler は其渡河を視察した。その頃 Graudenz は東 Preussen から前進した 3.A の一部によつて占領され、茲に 4.A と 3.A 間の連繫がとれた。9月6日には Thorn-Strasburg 道を超えた。

この行動間廻廊地帯に居つた波蘭軍は退路を斷たれ、Tucheler 荒地 (Tucheler Heide) 附近に蟄集し、解圍を試みたが結局失敗し、(2) 師團と (1) 騎兵旅團とが殲滅されて了つた。Guderian 將軍の指揮する装甲兵團は此戦闘に参加し、戦果を揚げた。

3.A は激戦を交へながら Mława, Przasnysz, Ciechanow を經て前進し、Pultusk 及 Rozan 間の Narew 川の線に到著した。この間波蘭軍の騎兵は Treuburg の北で獨逸領内に侵入を企圖したが、國境守備隊が之を撃退して了つた。

空軍

kau を抛棄した。

かゝる 14.A の作戦と一方 10.A の前進とによつて獨逸軍は上部 Schlesien の工業地帯を戦闘を交へる事なく、易々として其の手中に収める事が出来た。

10.A は其右翼を以て Tschenstochou 東南で波蘭の 7.D を殲滅し、Kielce を取り、Lysa Gora 山地に突入して行つた。又其の SKS は Radomsk を經て、9月6日 Piotrkow に達した。

8.A は左方に深く梯次の隊形をとりながら、Kempen 附近の地區から Sieradz 兩側の Warthe 川の線に前進し、Sieradz 北側で巧に同河の渡河點を奪取し、次で堅固な Warthe 川の線に沿ふ築城を攻略した。かくて同軍は Lodz 西方 30km の地區に達し、又其の左に梯次した部隊は夫々 Ostrowo、Krotoschin 及 Lissa の諸市を占領した。

北 GSD

北 GSD に於ては主力を以て Bromberg—Graudenz 間の Weichsel 川の線に向つた。

迄持久的の退避に努めて居たが、遂に敗退の狀態に陥り政府は Warschau から Lublin に逃避するに至つた。波蘭統帥部は獨逸軍の電撃的攻撃の前に爲す所を失ひ、全く受動に陥りPosen附近に居つた其主力は自己の退路の危険から北又は南に攻撃する自由を失ひ、東に向つて急速に退却に就いた。

兩空中艦隊は、電撃的行動を以て波蘭軍の飛行場を襲撃し、又空中戦闘に於ても大なる成功を収めた。そして二日間を以て波蘭の全空域を制して了つた。

従つて波蘭空軍が獨逸領を空襲する力は全く無くなつて了つた。又空地連絡は理想的に行はれ、9月3日以來爆撃隊の主力は敵の後方連絡・鐵道・停車場・軍事輸送・橋梁等を攻撃したので、波蘭軍の作戰及補給は大なる支障を生じ、支離滅裂に陥つて了つた。又偵察隊の主力は有利な資料を地上軍に致した。

海軍

海軍は練習艦 Schleswig-Holstein を以て Danzig 港の一角 Westerplatte の攻略に有力に協力し、其他の海軍飛行隊及艦艇を以て Hela 半島の諸要塞及 Gdingen の攻略に任じ、波蘭艦隊は殲滅せられた。

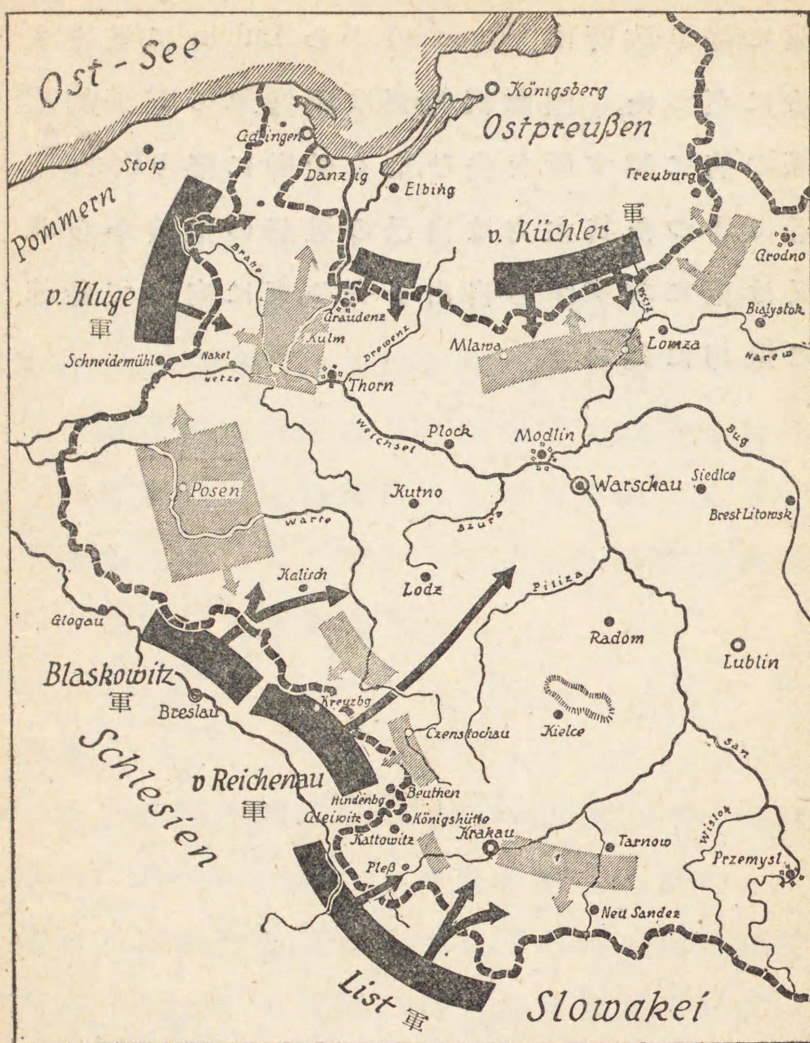
かくて9月6日には作戰上一大轉機を生じた。即ち波蘭軍の抵抗は各所で打破せられ、この日

插圖第2.



1939 年 9 月 2 日の戦況

挿圖第 1.



1939 年 9 月 1 日開戰直前兩軍配置要圖

挿圖第4.



1939 年 9 月 6 日の戦況

挿圖第3.



1939年9月4日の戦況

南から山脈を超えて前進した部隊は Neu-
markt-Sucha の線に到着した。

Mährisch-Ostrau の南方では Teschen 附近で Olsa
川を渡つた。

工業地帯の南方では Kattowitz の高地を前進
中。

Schlesien から前進した部隊は Tschenstochau 及
其北方地区に向ひ急進中。

廻廊地帯では我軍は Brahe 川に接近し Nakel
附近で Netze 川に達した。

Graudenz の前面では戦闘行はる。

東 Preussen から前進した部隊は、深く波蘭領
内に侵入し戦闘中である。

空軍は本日反復出動して Rahmel, Putzig, Graudenz, Posen, Plock, Lodz, Tomaszow, Radom, Rura, Kattowitz, Krakau, Lemberg, Brest, Terespol の各波蘭飛行場の軍事施設を攻撃し、之を破壊した。

又多数の爆撃隊は有効に地上軍の進撃を支援した。

2. 9月1日—7日の作戦經過に關する獨逸軍 總司令部日々の發表

9月1日發表

獨逸軍は Schlesien, Pommern 及東 Preussen から一齊に作戦行動を始め、各戦線共本日豫期の戦果を得た。

Neu Sandez 方面の Beskiden 山地



Pless を占領した。

その北方では火點
を有する陣地線を
突破した。

工業地帯の北では
Warta 市に近接中。

装甲部隊は Tschen-
stochau 北側を Ra-
domsk に前進中で
Wielun を占領し、又
Kempen を越えて前

進した一部は Sieradz に向ひ急進中。

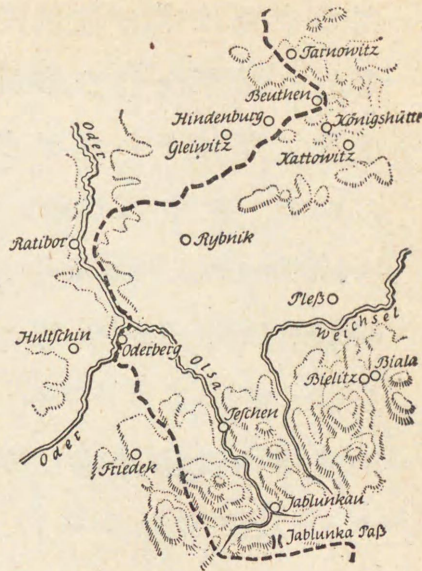
Pommern から前進した部隊は Brahe 川を通過
し、先方部隊を以て猛烈に突進し Graudenz 西
南方 Weichsel 川に達した。

かくて東 Preussen から Graudenz 方向に向つた
部隊と殆んど連絡し得るやうになつた。

廻廊北部に在る波蘭軍の一部は遮斷せられ、
獨逸軍は Tucheler 荒地(森林)の掃蕩を實施中。

東 Preussen から南に向ふ攻撃は計畫通り開

波蘭西南角



かくて獨逸空軍は中部獨逸及西部獨逸に強大な兵力を控置せるに拘らず、本日波蘭の制空權を得た。

獨逸海軍の一部は Danzig 灣を封鎖し、且東海の安全を確保す。

Danzig 港に在る練習艦 Schleswig-Holstein は波蘭軍の占據する Westerplatte を射撃中。

Gdingen では其軍港を爆撃した。

9月2日發表

第一報

獨逸軍は9月1日午後から本2日早朝に互り全戦線有効な前進を繼續中。

Jablunka 峠は迅速に奪取した。

空軍は波蘭軍飛行場を攻撃し、之を破壊して多數の飛行機を全滅させた。

第二報

獨逸軍の前進は全正面に互り、更に迅速なる成果を収めた。

上部 Schlesien の南方の部隊は Biala に近接し

Danzig 灣沖の海軍は Hela 半島の防禦設備及 Hela 軍港を砲撃した。

又海軍飛行隊も屢々 Gdingen 軍港を爆撃した。

9月3日發表

9月2日午後及本3日朝獨逸軍は全戦線に互り波蘭國內深く進撃中で Tschenstochau を占領し、Wielun 東方で Warthe 川を渡河した。

廻廊に於て後方を遮斷された波蘭軍は南に向ひ突破を試みたが失敗し、Berent は獨逸軍の有に歸した。

9月2日獨逸軍空中艦隊の決定的成果により獨逸軍の兩空中艦隊に屬する諸飛行師團は完全に波蘭の上空を制壓した。

此等諸隊は目下其根據飛行場に於て待機中である。又未だ使用されぬ空中部隊は依然其飛行場に待機中である。

東南の戦線では獨逸軍は間斷なく前進し Radomsko を占領した。

始せられ、獨逸軍は Przasnysz に向ひ前進中。

獨逸空軍は本日波蘭内の軍事目標に對し、電撃的な猛撃を行ひ、多數の波蘭軍飛行機は空中戦で撃破せられ、又多數の飛行場が攻撃せられた。就中 Gdingen, Lodz, Radom, Demblin, Brest-Terespol, Lublin, Luck, Golab, Warschau-Okecie, Posen-Lawica 等の飛行場が甚しい攻撃を蒙つた。

格納庫内及滑走場に在つた飛行機は炎上して了つた。

尙最も緊要なる鐵道線路を破壊し、敵の輸送列車を脱線させ、又退却中の行軍縱隊を爆撃した。

Skarzysko-Kamienna の彈藥工場は空中に飛散して了つた。

本日の戦果によつて波蘭空軍は最も困難なる状態に陥つたものと判斷される。

獨逸空軍は波蘭全土に互り絶對的の制空權を獲得し、今や國土防衛の爲の爾後の任務に應じ得る状態である。

東 Preussen から進撃した獨逸軍は Przasnysz を占領した。

波蘭軍騎兵は Treuburg から獨逸領内に侵入を企圖したが撃退せられた。

9月3日獨逸空軍は軍事上重要な交通施設及大部隊の輸送に對する攻撃を反復した。

爆撃機及び急降下爆撃機は反復活動し, Schlesienから前進した部隊の迅速な戦果の獲得を容易ならしめた。

Kutno—Warschau, Krakau—Lemberg, Kielce—Warschau, Thorn—Deutsch-Eylaw 間の鐵道線路は破壊せられ、列車の脱線焼失及爆破を多く認められた。

Hohensalza の停車場は根底的に破壊された。

Warschau 近傍 Okęcie では飛行機工場が大破壊を蒙り同地に待機中の波蘭軍豫備飛行機は悉く破壊された。

Warschau 上空の空中戦で波蘭軍飛行機7機及氣球が撃墜せられたが、獨軍に損害なし。

昨3日に於ける海軍の戦果も亦著しく、獨逸

9月4日發表

Schlesien 及同地南方から前進した獨逸軍は Tatra 高地北方及工業地帶南方を Krakau に向ひ退却中の敵を急追中。

Pless 東方では Weichsel 川の渡河に成功した。工業地帶北方に於ては獨逸軍は Koniepol — Kaminsk の線及 Wielun 東北方 Warthe 川を超えて退却した敵を追撃し, Sieradz を距る 20km に近迫した。

Pommern 軍は強大な兵力を以て Culm 附近 Weichsel 川に達し, 北部廻廊内に在る波蘭軍の遮斷に成功した。

Graudenz 要塞に對する獨逸軍の攻撃は東北方地區に於ては堡壘線に突入した。

波蘭西北部



北方では獨逸軍の爲包圍されて居る波蘭軍の廻廊部隊は獨軍の鐵のやうな包圍を突破しようと試みたが到る處で失敗し、昨4日以來絶望的な狀況を認識したと思はれる徴候が多い。

Graudenz の要塞施設は獨逸軍の手に歸した。Kulm 附近及同地南側で Hitler の目前で Weichsel 川を渡河した獨逸軍は東岸を急進した。Mlawa 附近では東 Preussen の部隊は各個戦闘の下に同市及同所の築城施設を占領し、撃破された波蘭軍は南に退却した。

獨逸海軍は計畫通り獨逸沿岸の警戒を行つて居る。

空軍は制空權を確保し、波蘭軍飛行機40機を撃墜し、其の内15機は空中戦闘によるものである。

又波蘭軍の行軍縱隊及鐵道列車群に對する空襲によつてその計畫的退却は無効に歸した。

驅逐艦は軍港に碇泊中の敵艦に有効な射撃を実施し、又 Danzig 灣に在つた波蘭軍潜水艦 1 を撃沈した。

Gdingen 及 Hela に對する空襲は再興せられ、波蘭軍驅逐艦 Wicher 號を撃沈し、敷設艦 Gryf は大損害を受けた。

9月5日發表

9月4日獨逸東方軍は全線に互り敵の抵抗を破り、引續き前進中で、敵は各所で大打撃を受け、混亂して退却した。捕虜及戦利品の數は目下尙不明である。

波蘭軍 7.D は Tschenstochau 東南方で全滅し、司令部は捕虜となつた。

南方では Krakau に向つて猛烈に追撃中で、Wadowice 附近で Skawa 川を渡河した。又其北方では Jaworzno を占領した。

波蘭軍は東部上部 Schlesien 工業地帯から急に撤退した。

Sieradz 附近では Warthe 川の渡河を強行した。

した。同方面の戦線に於て波蘭軍の捕虜は10,000名、戦利砲60門に達する。

獨逸空軍の攻撃は昨日も亦敵の交通線及後方連絡線に大なる支障を生ぜしめた。

Złunska-Woja, Skarzysko, Tarnow 及 Wreschen の各停車場は焼失し、多くの線路は破壊された。波蘭軍飛行機は Lodz 附近の若干の驅逐機の外は最早絶対に現れず、獨領に對する波蘭飛行機の攻撃は昨9月5日何處にも行はれなかつた。

獨逸海軍は東海で波蘭軍潜水艦を撃沈したが、之は第3隻目である。

9月7日發表

波蘭軍の退却は昨日全線に互り續行せらる。

東方軍の諸隊は空軍の斷乎たる協力に支援せられ、敗敵を急追し、各所に之と戦闘を交へた。

南波蘭では Neu-Sandez を占領し、同市及其北方で Dunajec 川を渡河した。

9月6日發表

波蘭に於ける獨逸陸軍の作戰は9月5日計畫通り進捗した。

山岳部隊及び機動部隊は廣正面を以て Beskiden の北出口を攻略し, Neu-Sandez に向ひ急進中。

南及北から Krakaw に向つて前進した部隊は波蘭軍を同市街に壓迫した。

東部上 Schlesien の工業地帯は獨逸軍の手に歸し,更に東北では午後早く Checiny-Lopuszno-Piotrkow の線を占領した。

Silradz 兩側では堅固な火點陣地線を突破し,引續き Warthe 川の東岸地區を Lodz に向ひ攻撃を續行す。

Kulm 及 Graudenz 附近で Weichsel を東岸に渡河した部隊は敗敵を追撃中。

東 Preussen から Mlawa を經て前進した獨逸軍は Cichanow を占領した。

波蘭軍は猛烈な壓迫を受け南に退却し,獨逸軍の快速部隊は Rozan 附近で Narew 川に達

又鐵道施設、停車場及橋梁に對する攻撃は依然續行して居る。

Warschau 南方の Weichsel 川の橋梁は爆撃の爲破壊を受け、又Warschauの西停車場は炎上して居る。

獨逸軍は戰鬥を交へる事なく Krakau を占領し、Pilsudski 元帥の墓前に敬意を表した。

又獨逸軍は Kielce 占領後 Lysa Gora 山地の西部を通過して急進中。

又其北方では Tomaszow 市及 Lodz 市に接近す。

北方では Graudenz 西北 Tucheler 荒地に在る波蘭軍廻廊部隊の殘敵を掃蕩中で、戰利火炮の數は90門に達し、波蘭の 9.D, 27.D 及(1)戰車大隊、(2)獵兵大隊及 Pomorsk 騎兵師團は全滅し敗殘兵は武器裝具を捨て、Weichsel 川を渡河して逃げた、森林内に捨てられた武器裝具の數を調査し之を回収するには尙數日間を要する見込。

Weichsel 川の東では Thorn—Strasburg 道を超えて前進し、Drewenz 川に橋頭堡を設けた。

東 Preussen から前進した部隊は Pultusk の兩側及 Rozan 附近で Narew 川に達した。

獨逸空軍は昨日低空飛行を斷行して退却する敵縱隊を攻撃し、之を壊滅せしめた。

第二期 追 撃 (9月7日—9日)

1. 追撃経過の概要 (挿圖5)

9月7日から敗敵に對する追撃が始まつた。この追撃は單に波蘭軍に大損害を與へるばかりでなく、寧ろその全滅を準備するものであつた。

即ち波蘭軍主力は Weichsel 川の東に下らうとして居るから、その前に之を捉へて之を包圍する必要がある。

之は單なる正面追撃では期待し得らるるものでは無く、波蘭軍を超越して之より前に Weichsel 川に到著して全線を阻絶する必要がある。

かうした行動は世界大戰の初め騎兵に期待せられたが、當時の騎兵は戦力の不十分と速度の不足との爲に果さなかつたのである。

然るに今日は快速部隊の時代である。自動車化部隊及裝甲部隊は發動機の力を十二分に利用して波蘭の慘憺たる道路を意とせず、波蘭

めた。

即ち 14.A は Gorlice-Tarnow の線を超え9月9日
夕迄に Sanok-Przemysl-Jaroslau 間の San 川の線
に達した。

10.A の右翼方面では軍團長 Hoth 將軍は其軍
團の主力を以て Lysa Gora 山地から間斷なく
迂回行動を續けて Radom 東南側地區に前進し
同地で背を Wechsel 川に向けながら優勢な波蘭
軍が Deblin 及其南の Weichsel 川の橋梁に達しよ
うとする企圖を速に打ち摧き、而も9月9日には
攻勢に轉じ大なる戰果を收めた。

10.A の他の部隊は Radom の包圍圈を西から
縮め、又同軍の左翼の部隊は Lodz の南を経て進
み Skierniewice に向ひ、又其左翼後に梯次した
部隊は Lodz を占領した。

Skierniewice-Sochaczew-Kutno の地區では、波蘭
軍が集結して Warschau 及其附近の Weichsel 川
の線に達しようとしたが、同所では既に Ho-
epner 將軍の SKGD が鐵のやうに固く門戸を閉
して居た。

軍を迂回し、或はその後衛を撃破し、波蘭住民のゲリラ的行動に屈せず、前進又前進、却つて波蘭軍主力から追及されるやうな形になつて、Weichsel 川に到着した。

即ち 9 月 8 日迄に 14.A の快速部隊は Tarnow Rzeszow, Staszow を経て Sandomierz 附近 Weichsel 川に達して居る。10.A では Hoepner 將軍の率ゐる装甲軍團(SKGD)は Rawa を経て Weichsel 河畔 Gora-Kalwarja に突進し、其の Reinhardt 將軍の率ゐる師團は 9 月 9 日即ち開戦後八日目に波蘭の首都 Warschau の一角に突入し、同市を西方及西南方に對し遮斷して了つた。

又北方では Guderian 將軍の SKGD は 4.A から分れて東 Preussen を経て軍の最東翼 Wizna に出で波蘭軍が Weichsel 川を超えて逃げた場合には Bug 川の後方で波蘭軍の後方を押へようとした。

之と同時に獨逸軍の徒歩師團も 50km 以上の強行軍を行ひ、塵埃多い道路を前進し、既に急進して居る快速部隊と相待つて包圍の完成に努

民軍(Heimwehr)は軍艦 Schleswig-Holstein の艦砲
の掩護の下に協力して Westerplatte に在る勇敢
な波蘭軍に對し攻撃を續けた。

8.A は9月9日一部を以て Lodz の西を北に向つて Lenczyca 方向に旋回し、激戦の後 Warschau に向ひ退却中の波蘭の Posen 軍の中に突入した。又其の後に梯次する他の一部は Posen 州の廣大な部分を占領した。

4.A は Weichsel 川の兩岸を前進し9月9日西岸では Wloclawek の西に又東岸では Drewenz 川の敵の抵抗を打破して Plock の西北地區に達した。

3.A は9月7日其左翼を以て Pultusk 及 Rozan 附近の Narew 川を渡河し、翌日波蘭軍を Wyszkow 附近の Bug 川の後方に撃退した。之に反し Lomza 附近では波蘭軍は尙頑強に抵抗を續けた。

以上のやうな間斷なき追撃には空軍が決戰的に参加し、或は敵の行軍縦隊に對して集團的な攻撃を行ひ、或は渡河點及橋梁を破壊して敵の退却を妨げて Weichsel 川の線を閉塞した。

空軍は又終始爆撃隊及急降下爆撃隊を以て地上戦闘に有効に協力した。

東海の戦線では工兵海軍突撃隊及 Danzig の

2. 9月7日—9日の作戰經過に關する獨逸軍 總司令部日々の發表

9月8日發表

波蘭に於ける戰況は昨日多くの地點では追撃の姿を表はしたが若干箇所では尙激戦が交へられた。

Gorlice の東南及 Tarnow の東では獨逸軍は Wisloka 川に向ひ追撃した。

Weichsel 川の北では快速諸部隊は Staszow 市に、又 Lysa Gora 山地北側では Kamienna のすぐ西の地域に達し戦闘しつつKonskie—Opocno 鐵道線を超えた。

Tomaszow の北方では裝甲部隊は敵を Rawa Mazowiecka から撃退し、Warschau の前面 60km の附近に達した。

Thorn と Strasburg 間では Drewenz 川を渡つた。

Danzig の Westerplatte の波蘭守備兵は降伏した。此部隊の抵抗は獨逸軍工兵、海軍突撃中隊及ナチス親衛隊とて、軍艦 Schleswig-Holstein

挿圖第5.



1939年9月9日の戦況

る。

獨逸軍飛行機 2 機は波蘭領内で撃墜せられ、
1 機は行方不明になつた。

獨逸領は昨日も何等敵飛行機の攻撃を受け
なかつた。

北海及東海に於ては海軍は機雷搜索を行ひ、
掃海艇隊は波蘭領の某海岸砲臺を砲撃し、敵
の應酬を受けたが獨軍側に損害はなかつた。

9月9日發表

敗殘の波蘭軍は昨日も亦殆んど全線に互つ
て退却を續行した。

獨逸軍快速部隊は波蘭軍の後衛を幾度も突
破して其前方部隊を以て Sandmierz と Wars-
chau の間所々で Weichsel 川に達し、午後西南
方から首都に突入した。

南波蘭では Wisloka 川を超えて東進し、自動
車化部隊を以て Rzeszow に達した。

Sandmierz 附近では Weichsel 川の東に地歩を
占めた。

の協力の下に撃破したのである。

Warschau の北では Pultsk 及 Rozan 附近で Narew 川を渡河した。

Posen 地方では其南及其北で廣い地域を占領した。

陸軍のこの早い且大きな成果に對し空軍は此日も決定的な協力をした。

空軍の主力は退却する波蘭軍に向ひ用ひられ、水平爆撃と急降下爆撃とを以て直接地上戦闘に協力した。

かくて波蘭軍の行軍縦隊は四分五裂し、退却路は橋及渡河點が破壊されたので閉塞せしめられた。

又敵が準備した反撃も其準備間に打ち摧いて了つた。

尙 Warschau の南 Weichsel 川の各橋梁に對し絶えず爆撃を行つた。

Warschau では主要な大道路ですらも縦隊が充滿して閉塞して居る。

敵は同市から速に撤退しようと努力中であ

では獨逸軍諸隊は東に向ひ、敗敵に對し追撃を續行中。

Sandomierz と Kutno に亙る廣大な Weichsel 川の彎曲部では快速兵團及裝甲兵團が Weichsel 川に達し大成功の緒を開いた。

多くの波蘭軍師團の各一部は Radom 附近で Weichsel 川との間を分斷せられ、四方から包圍されて了ひ、目下獨逸軍と激戰中であるが其運命は旦夕に迫つて居る。

北方では Weichsel 川の兩側を前進した獨逸軍は Wloclawek 西側及 Plock 東北に達した。

Warschau の東北では獨逸軍は Bug 川の南岸に地歩を占めた。

Lomza 附近及其東では尙戰闘が行はれて居る。

空軍は Warschau から東及東南へ通ずる道路及鐵道を爆撃によつて閉塞し、又此地域に尙残つて居る波蘭軍の地上設備を攻撃した。Lublin 攻撃の際獨逸軍爆撃隊及直接協同飛行隊は波蘭機 7 機を空中戰で撃墜し、地上の

又 Lublin に向ふ攻撃部隊は Weichsel 川の西で Zwolen 及 Radom を占領した。

其北では Gora Kalwarja 附近で Weichsel 川に達した。

Lodz は本日後方に梯次する部隊によつて占領された。又同地附近に戦闘中の部隊の主力は市の兩側を経て Bzura 川の南側を戦闘しながら退却中の敵を追撃中。

Posen 州内に於ては敵の抵抗を受くる事なく、占領地域を逐次擴大す。

Warschau の北では Wyszkw 及其東で波蘭軍を Bug 川の南に撃退した。

空軍は終日主として Weichsel 川西側及東側の敵の退却路を攻撃した。

波蘭軍飛行機の現出は甚だ少く、僅に Sandomierz-Warschau 間の Weichsel 川橋梁上に驅逐機が若干現るゝだけである。

9月10日發表

Beskiden 山脈と Weichsel 川上流との中間地區

第三期 決 戦 (9月10日—14日)

1. 決戦経過の概要 (挿圖 6.7)

9月10日から到る處に決戦が始まつた。

14.A は波蘭軍を San 川から撃退し, Przemyśl 要塞を包圍した。

Kübler の指揮する山岳師團は,強行軍を以て既に9月12日 Lemberg に達し,其一部は Lemberg—Tomaszow—Lublin 道に達し, Radom 附近の包圍の爲に二重包圍の形をとつた。

Radom 附近では60.000人が降伏し,包圍部隊は更に Weichsel 川を超えて Lublin 方向及 Deblin に向つた。

Kutno 附近では9月10日より14日の間激戦が續けられた。

同地附近の波蘭軍主力は南及東南に脱出を企圖したが,之に對して獨逸軍の 10.A 及 8.A の一部が對抗したが,何れも劣勢で,例へば Briesen 將軍の師團は Lenczica 附近で苦戦に陥つた。

8 機に爆彈を投下し大破せしめた。

又飛行部隊は地上軍の支援の爲に Radom 地區及 Narew 川及 Bug 川間の地區で有効に地上戦闘に参加した。

Hitler は此戰線で屢々第一線に出て、志氣を鼓舞した。

この間 Warschau の西及西南で戰鬪中の部隊は同市の包圍圈を閉ぢ、又北では 4.A も同市の包圍圈閉鎖に成功し、更に Modlin の包圍に取りかゝつた。

Weichsel 川の東では 3.A が其の右翼を以て Warschau—Siedlce 鐵道線迄進出後西方及西南方に旋回し、Warschau 市の外郭 Praga に接近した。かくて Warschau は東に對しても閉鎖せられて了つた。

波蘭軍は 9 月 14 日脱出を企圖したが、急降下爆撃で之を打破した。又其の東では激戰の後 Narew 川を Nowogrod 附近及 Wizna 附近で突破し、又 Lomza 要塞及 Ossowiez も獨逸軍の手中に歸した。

Guderian 將軍の率ゐる SKGD の一部は、9 月 14 日既に Brest 要塞の築城地帯に突入した。

又一方陸海軍は協力して Gdingen を占領した。

Lublin 附近



挿圖第7.



1939 年 9 月 14 日の戦況

挿圖第6.



1939 年 9 月 11 日の戦況

Neustadt 及 Putzig は獨逸軍の有に歸した。

海軍は波蘭の砲臺及 Gdingen 要塞に對し有効な攻撃を加へて陸軍の前進を容易ならしめた。

空軍は Warshau の東方及東北方の鐵道線路及 Lemberg 及 Lublin—Chelm の地區を再三有効に攻撃して敵縱隊及軍隊輸送列車を撃滅した。

Lemberg では西停車場を破壊した。

9月12日發表

Weichsel 川の西方地區に於ける大會戰は其終に近づいて居る。

南 GSD は強行軍を以て San 川に向つて前進し、更に同河を渡河して敵を壓迫して居る。

其山岳部隊は最外翼を以て Przemysl 南方の Chyrow に達した。

Zwolen, Radom 及 Lysa Gora 山地間の地區に於て敵は武器を捨て、降伏した。戦利兵器の數は少くも4師團分に上るものと考へられ、

2. 9月10日—14日の作戰經過に關する獨逸 軍總司令部日々の發表

9月11日發表

波蘭に於ける大會戰はいまや最高潮に達し、Weichsel 川西方の波蘭軍は全滅に瀕して居る。

南波蘭では頑強に抵抗した波蘭軍を San 川を超えて壓迫し、Sanok—Jawornik Polski 間及 Radymno 及 Jaroslaw の渡河點を奪取するや、各所で包圍されて居た敵は降伏を始めた。

包圍された敵部隊の突破企圖は到る所妨害された。

獨逸軍は Narew 河畔の波蘭要塞附近に於て激戰を交へた後 Nowogrod 及 Wizna 附近で南岸に橋頭堡を構成する事が出來た。

各種口徑の波蘭火砲は Warschau の東部地區から同市西部に在る獨逸軍部隊に對して火力を開いた。

Gdingen 軍港の攻圍は尙續行中。

した。

又 Bialystok の停車場を破壊した。

Hela 半島の西部に在る Grossendorf 及其港灣設備は獨逸海軍の小部隊によつて占領された。

9月13日發表

9月12日獨逸軍は其南方翼及北方翼を以て敵に對し雪崩を打つて追撃を續行した。

南方翼は Przemysl 兩側を急進しつゝ Sambor 及 Jaworow を奪取し、先方部隊を以て Lemberg に達した。

Radom 南方に包圍されて居た波蘭軍は壊滅して了つた。

捕虜や戰利火炮及各種兵器の數は莫大で目下調査中である。

Kutno 附近に包圍された波蘭軍5師團及騎兵旅團2が南に逃げようとした企圖は打破せられ、獨逸各師團は求心的に攻撃を續行中。

Warschau の東及び東南では獨逸軍大部隊は Warschau—Siedlce 街道及同鐵道線路を超えた。

捕虜の數はまだ明かでない。

Warschau の南方 Weichsel 川の東では裝甲部隊が重砲若干門を奪つたが、其中には 21cm の臼砲がある。

Kutno 附近に包圍された敵が南に脱出しようとする試みは初めから成功疑はしかつたが今や水泡に歸して了つた。

即ち此敵の周圍にも包圍の環が完成せられた。

Weichsel 川の北でも獨逸軍は Modlin 要塞に接近中である。

Warschau の東北方でも激戦の後敵を撃破した。

追撃間獨逸軍は主力を以て Warschau-Bialystok 鐵道線路を通過し、又其先遣部隊は Warschau-Siedlece 鐵道線に達した。

空軍の諸部隊は昨日に同じく Kutno 附近地上軍の支援及 Weichsel 川東方の敵の後方連絡の遮斷を行ひ効果を収めた。

某急降下爆撃隊は Warschau の東出口を遮斷

又 Sandomierz 北方多くの地點で Weichsel 川を渡河した。

Radom 附近の殲滅戰の戰果は、取敢へず知り得た所によると捕虜 60,000 に達し、其中多くの將官が居る。又火砲 143 門、戰車 38 臺である。

Kutno 附近の包圍戰は續行中である。

首府 Warschau 周圍の包圍環は昨日東方でも閉鎖した。

Modlin の東方では獨逸軍は Narew 川を渡つて同市に近接した。

又 Warschau—Siedlce 道を超えて前進した獨逸軍は一部を以て西南方及西方へ旋回した。

波蘭の 18.D は司令部諸共昨 13 日 Ostrow-Mazowiecka 北側で降伏した。捕虜 6,000、火砲 20 門が獨逸軍の有に歸した。

Brest-Litowsk に前進した部隊は急速に同市に近接中である。

Ossowice は昨日東 Preussen から前進した部隊によつて占領されたが、之は占領された國境

最も東に居る装甲部隊は Brest 北方 40km に達した。

この戦線後方に遙かに遅れて Lomza から南方へ退却に就いた波蘭軍の 18.D がまだ Bug 川の北に居る事が明かになつた。

空軍は昨日も亦有効に Weichsel 川東方の道路や橋や鐵道を攻撃した。

Krystynopol の停車場では 3 箇の列車が災上して居る。

Luck の飛行場に大破壊を與へた。

Biala Podlask の飛行機工場は全焼して居る。

波蘭の飛行機 14 機を破壊したが、其中 2 機は空中戦による。

空中偵察は指揮の爲に有利な成果を擧げた。

9月14日發表

南波蘭の作戦は波蘭側の抵抗益々減少して急速に東方に地歩を得て居る。

強大な兵力を以て Rawa-Ruska 及 Tomaszow 附近で Lublin-Lemberg 道に達した。

場に對し有效な爆撃を加へ、又 Kutno 附近に包圍された敵を或は爆撃し、或は低空攻撃を行ひ、よく地上軍に協力した。

Heisternest 港に在る波蘭の軍艦は爆撃によつて沈沒した。

要塞中最後のものである。

空軍は不良な天候に拘らず有効に Warschau の東縁及波蘭軍の後方連絡線を攻撃し、又波蘭機 2 機を撃墜した。

9日15日發表

9月14日南 GSD は Lemberg—Lublin 道を通過した。

Kutno 附近に包圍された強大な敵は、空しく防戦中であるが、昨日再び東南方に脱出を試みたが、又不成功に終つた。

Weichsel 川の東では獨逸軍は北方、東方及東南方から Warschau の外郭 Praga に達し、波蘭軍の東に向ふ突破企圖を打破して了つた。

Brest-Litowsk 要塞に向つた部隊は北から同要塞地帯に突入し、堡壘の一部を爆破した。波蘭軍はまだ舊城堡(Zitadelle)を保持して居る。

Gdingen 市は獨逸軍の手に歸し、海軍は同市周邊及 Hela 半島の戦闘に参加し、又 Gdingen 港の南港に突入を試みた。

空軍は悪天候にも拘らず鐵道線路及各停車

第四期 包圍殲滅 (9月15日—20日)

1. 作戰經過の概要 (挿圖 8-10)

14.A は敵を急迫して15日 Przemyśl 要塞を占領した。

此日 Hitler は同地附近で部隊の渡河を観察したが、當時先遣の獨逸部隊は既にその前方80 km の地點に迄突進して居た。

この快速部隊は Lemberg 附近に在る山岳師團と連繫しつゝ、Lemberg-Lublin 道に沿ひつゝ、Tomaszow-Zamocz の線に引返し、東に遁走する波蘭の南方軍の捕捉に努めた。

同方面に於ける激戦は9月20日迄續き波蘭軍の突破企圖は悉く打破せられ、獨逸軍の後續各軍團の到著に伴ひ波蘭軍の南方軍主力は其軍司令官と共に降伏した。

Lemberg は 9月17日全く包圍されて了つた。

9月10日以來南方戦場で得た捕虜は60,000、火炮130門に達する。

4.A の一部は Modlin 要塞を包圍し、同要塞の外部との交通は Warschau との間に僅に Weichsel 川に沿うて行はれる丈となつた。

16日無益な殺傷を避ける爲に Warschau に對し降伏を勧めたが容るゝ所とならなかつた。

9月18日には Gdynen が陥り將校 350 人下士官兵 12,000 人及火砲 40 門が獨逸軍の手に歸した。

此日 Brest の舊内城が陷落した。

9月17日 06²⁰⁰' 蘇軍は一齊に國境を超えて西進を始めた。

此日波蘭部隊は Rumania に逃避し、かくて波蘭側の抵抗は僅に Warschau, Modlin 及 Hela で行はれて居る丈けとなつた。

やがて獨逸軍は獨蘇協定線に向つて後退に就いた。

10.A は Radom の戦闘後一部を以て Lublin に向ひ同市を占領し、他の一部は Deblin を占領した。

9月16日 Bug 川に沿ふ Wlodawa に於て上部 Schleisen, Slowakei 及東 Preussen の三方面から前進した搜索部隊が手を握つた。

かくて波蘭軍が萬一 Weichsel 川を超えて退却した場合を顧慮して San 川及 Bug 川の彼方に部署した二段包圍の企圖が完成したのである。

Siedlce では 10.A は 3.A の部隊と協力して敗残の波蘭軍 12,000 人及大砲 80 門を得た。

10.A の一部及 8.A, 及 4.A の一部によつて包圍された波蘭の Posen 軍及廻廊軍は益々壓縮せられ、8.A は西から進んで 9月15日 Kutno を占領した。

9月16日には Bzura 川を北に渡つて攻撃した。

9月17日同所の波蘭軍は解體を始め、9月20日迄に捕虜 170,000 を得、波蘭軍の (9)D, 他の (10)D の各一部及騎兵旅團(3)及廻廊軍の軍司令部が降伏した。軍需品の數は無數である。

挿圖第9.



1939年9月18日の戦況

挿圖第 8.



1939 年 9 月 16 日の戦況

2. 9月15日—20日の作戦経過に關する獨逸 軍總司令部日々の發表

9月16日發表

獨逸東方軍の南 GSD は9月15日も亦波蘭南方軍の敗殘部隊を急追した。

Lemberg 前面及 Tanew 河畔 Bilgoraj 附近で敗殘部隊と戰鬪行はる。

更に其東では自動車化部隊は Włodzimierz に達した。

又 Przemyśl を占領した。

Kutno の包圍環は新銳部隊を加へて益々之を強化し、且縮小された。

Warschau 東南方に於ては獨逸軍は敵の突破の試みを防支した後、同地で捕虜8,000及火砲126門を奪ひ、目下 Praga に至近の距離に迫つて居る。

Białystok を占領した。

Brest の舊城周圍に於ては戰鬪が尙行はれて居る。

挿圖第10.



1939年9月20日の戦況

市に於て無益の抵抗をすることをやめるやうに奨めたが、同司令官は獨逸軍將校の引見を拒絶した。

敗殘の波蘭軍が Siedlce を經て南へ逃げようとする試みは失敗に歸し、之が爲に 12,000 人の捕虜を出し、且火砲 80 門、戰車 6 臺及飛行機 11 機を獨逸軍の手に委した。

9月18日發表

波蘭の攻略は其の終りに近づいた。

Lemberg を全く封鎖し、又 Lublin を奪取した後、獨逸軍の一部は Lemberg—Włodzimierz—Brest—Białystok の線に位置し、かくて波蘭の大部分を占領したが、其後方各所で敗殘の波蘭軍の撃滅及捕捉が行はれて居る。

其内最大のものは波蘭軍の $\frac{1}{4}$ の兵力で、Wyszogrod 西南方で Bzura 川と Weichsel 川との間の狹地域に壓縮され、昨日以來漸次解體に瀕して居る。

封鎖中の Warschau からは 9 月 17 日ラジオで

空軍は東方國境に向ふ波蘭軍の最後の輸送行動を挫折せしめた。

9月17日發表

東 Galisia の掃蕩は 16 日も尙續行された。

Lemberg は三方面から包圍し、又 Lemberg と Przemysl 間の波蘭軍が東南に向つてする退却を閉塞して了つた。

San 河口の北では獨逸軍は Lublin 方向に急進中で Deblin を占領した又同地で完全な航空機 100 機が獨逸軍の有に歸した。

Brest の南 Wlodawa 附近で東 Preussen からと上部 Schlesien と Slowakei とから出た搜索部隊の最前方部隊が手を握つた。

Kutno の會戰は計畫通り進行中で Kutno 市は西から進んで占領した。又 Bzura 川を北に向つて渡河した。

又 Warschau の包圍は縮小された。

波蘭首府の民衆を困窮と恐怖とに對し守る爲に獨逸軍は一將校をして Warschau の波蘭軍司令官に對し百萬からの人口を擁する都

で殲滅され 10,000 人の捕虜を出した。

Lemberg に對しては開城を勸告した。

Warschau 前面では波蘭の代表が來著せぬので戦闘を再興した。

波蘭軍は 100 萬に上る市民に顧慮なく防禦を行つて居る。

空軍は昨日尙數次の爆撃を行つた。然しそれ以外には東方戰場では空軍の使用は最早必要ではなくなつた。

9月20日發表

Weichsel 川彎曲部に於ける會戰は、約一週間前に Kutno 附近に始まり、其後 Bzura 川に向つて東に移動したが、この會戰は大殲滅戰の一つとなりつゝある。

捕虜の數は昨日 Bzura 川に沿うた地區だけでも 105,000 人に達し、而も其後は絶間なく増加して居る。

又波蘭軍の死傷者の數及戰利資材の數は莫大な數に上る。

獨逸軍最高司令部に對し波蘭の某代表の引見を請うて來たので、獨逸軍最高司令部は其準備に在る旨を返電したが、9月17日夜半迄は一人の代表も來ない。

空軍は Wyszogrod 西南方に包圍された波蘭軍を有効に攻撃した。波蘭の空軍は最早全線に互り現出しない。

今や獨逸空軍は東方に於て負擔した任務を實質的には完了し、多くの部隊及高射砲を他の用途の爲に引上げて待機せしめて居る。

南北兩方面から前進した部隊は17日 Bug 河畔 Wlodawa 附近で手を握つた。

9月19日發表

波蘭軍の撃破され或は包圍された殘軍の解體は急速に進展して居る。

Bzura 河畔の會戦は終つた。只今までに捕虜 50,000 及莫大な戰利品を得たが、終局的な數量はまだ明かではない。

尙之より小さな波蘭部隊は Lemberg の西北

上り、而も今尙増加して居る。此會戰に参加した獨逸の兩軍の某一軍だけで今迄に火砲320門及戰車40臺を得た。

今迄に確めた所では、波蘭側は此會戰に (9)D と其他約 (10)D の各一部と騎兵旅團 (3) が參加した。

南方では Zamosz 及 Tomaszow 附近に於て激戰の後絶大な波蘭軍が獨逸軍の軍門に降つた。捕虜の中には波蘭南方軍の軍司令官もある。9月10日以來の戰鬪に於て捕虜60,000, 輕砲108門, 重砲22門を得た。

又 Gdingen 附近の戰鬪に於て得た捕虜は將校350, 下士官兵12,000 戰利火砲40である。波蘭軍の抵抗は今はたゞ Warschau 及 Modlin 及 Warschau の東南方 Gora Kalwarja 附近及 Hela 半島で行はれて居るだけである。

波蘭全土に互り今尙眞面目の抵抗を續けて居るのは Modlin 及其南方及 Warschau だけである。

又 Stryj-Lemberg-Brest-Bialystock の線迄進出した獨逸軍追撃部隊は同地に在る波蘭軍の敗殘部隊を撃滅した後は、獨蘇兩政府間で最終的に決つた協定線に向つて計畫的に引上げられる筈である。

Gdingen の戰鬪は昨日同軍港の奪取を以て終つた。

同地でも亦數千の捕虜が獨逸軍の手中に歸した。練習艦 Schleswig-Holstein 及掃海艦隊は有効に此戰鬪に協力した。

空軍の使用は全戰線共搜索のみに限定された。

9月21日發表

Weichsel 川彎曲部に於ける會戰の戰果はまだ十分に明かでない。

昨日午後迄に判明した捕虜の數は 170,000 に

第五期 Warschau 及 Modlin の占領

(9月21日 — 10月5日)

1. 作戰經過の概要

9月21日 Lemberg は獨逸軍に降伏した。

9月26日 Bilgoraj の東で波蘭の 41.D 及 1.KB は降伏したが、其の中には軍司令官 1 名及師團長 2 名及其幕僚があつた。

Warschau の陥落の經過は 9月21日同市に在る外交團 (178人) 及其他の外國人 (1,200人) を先づ救出し、22日同市と Modlin との連絡を絶ち、25日から猛撃を加へた。かくて早くも其翌26日には北では要塞の第一防禦線を、南では其第二防禦線を撃破した。

Warschau の司令官は降伏を申出で、交渉の後 27日無條件降伏が容れられ、120,000以上の波蘭軍が捕虜となつた。

數日後 Modlin 要塞も降伏した。

かくて 10月1日獨逸軍は Warschau に入城し

の後敵の裝甲列車1を占領した。

外交團に屬する 178 人及其他の外國人 1,200 人は昨日獨逸軍司令部指定の道を経て Warschau を去つた。

彼等は獨逸軍將校の出迎を受け、其夜の中に準備した列車で Königsberg に送られた。

9月23日發表

Lemberg は昨日同地から撤退中の獨逸軍に降伏した。

同市の明渡し交渉は市の東端に位置する蘇軍との諒解の下に行はれて居る。

一昨 21 日 Bzura 川に沿ふ森林を探索中波蘭の廻廊軍の司令官 Bortnowski 將軍を其司令部諸共捕虜とした。

獨逸軍は激戦の後 Modlin と Warschau 間の Weichsel の南岸道路を超越して前進し、茲に兩市の連絡を遮斷し、且この戦闘で數千の捕虜を得た。

た。

又此日 Hela 市が降伏し、4,200 の捕虜を得た。

Hitler は 10 月 5 日觀兵式を Warschau で行ひ、
茲に波蘭作戰は全く其幕を閉ぢたのである。

2. 9 月 21 日 — 10 月 1 日の作戰經過に關する 獨逸軍司令部日々の發表

9 月 22 日發表

獨蘇間の協定線に向つてする兩軍の行動は
計畫通り十分な友好關係の下に行はれて居
る。

Lemberg では交戦中の獨逸軍は蘇軍と交代
した。

Tomaszow 附近の戦果は既に判明したが捕虜
及戦利品の數は今尙絶えず増大して居る。

波蘭軍は度々 Praga から脱出しようと試み
たが失敗に歸した。

又 Warschau—Siedlce 間の地區では附近で輕戦

たゞ San 川下流の東で敗殘部隊との間に輕戰が行はれ、獨逸軍某裝甲師團は 2,000 の捕虜を得た。

Warschau 要塞及 Narew 要塞線



Warschau の波蘭軍司令官に對し、抵抗の無益な事と殘虐事である事とを説いたが無効だったので、昨 25 日全市に對して戰鬪行動を開始し、Mokotowski の堡壘及び之に續いて市の外郭 Mokotow 區の一部を占領した。

9月24日發表

協定線に向ふ獨逸軍の運動は全線共計畫通り續行せられて居る。

Tomaszow—Zamosc—Rudco の地區で敗殘の敵は南へ突破を試み、茲に戦闘が起つたが、その一部は Zamosc 西部で包圍され、他は東に逃避したが之は蘇軍に衝突した。

最近數日間 Praga 及 Modlin からの波蘭軍の逃亡者は増加して居る。

9月25日發表

昨24日獨逸軍の協定線に向ふ運動は到る處支障なく且蘇軍との相互諒解の下に行はれた。

急降下爆撃隊は再三反復して Warschau の軍事要點を有効に攻撃した。

9月26日發表

獨蘇協定線に向ふ運動は依然計畫通り續行せられた。

昨日入手した報告によると南方翼の San 川
東方に於ける戦闘で總計捕虜將校 500, 及下
士官兵 6,000 人を得た。

既に傳へた波蘭軍 41. Dの外に軍司令官 1 名
國境守備隊司令官並に 7.D 及び 39.D の師團長
が其司令部と共に降伏した。

昨日無條件で降伏した Warschau 市は諸準備
完了後恐らく 9 月 29 日占領する筈。

今日 Modlin の司令官も要塞の明渡しを申し
出た。

9 月 29 日發表

獨蘇協定線を超えての撤退運動に伴ひ昨 28
日 Przemysl を獨軍司令官から蘇軍に引渡した。
武装を解除された Warschau 守備兵の出發は
今日始まり、2 乃至 3 日間連續する筈である。
獨逸軍の Warschau 入城は 10 月 2 日と豫想す。
一般市民の給與の手段及衛生處置を講じた。
Modlin 要塞は獨逸軍の攻撃及砲火及爆撃に
よる破壊の結果無條件に開城した。

9月27日發表

獨逸軍は獨蘇協定線に接近して居る。

兩軍の中間に在る波蘭軍の敗殘部隊の中昨26日波蘭軍41.D及び1.KBが降伏した。

從來非武裝都市と看做した Warschau 市は衛戍司令官の方策により古い堡壘の改裝や市民の武裝により要塞と變じた。

之に對する攻撃は昨日市の北部に於て第一堡壘線を又南部に於て第二堡壘線を占領した。

この攻撃の結果波蘭軍司令官は今日午前市及守備兵の明渡しを申出た。國防軍長官は Blaskowitz 將軍に市の受領の交渉に任ずる事を命じた。

空軍は Modlin の軍事要點を攻撃した。

9月28日發表

獨逸軍主力は計畫通り獨蘇協定線を通過した。

た Hela 半島は獨逸陸海軍の準備攻撃の開始に先だち昨日無條件に降伏した。

本日午前將校 52 (其内波蘭艦隊司令官 von Unruh 海軍少將がある)及下士官兵 4,000 人が降伏した。

其明渡の細部は北 GSD の命令により Modlin 前面を擔當した某軍團長に委ねられた。
要塞には將校約 1,200, 下士官兵 30,000 及負傷者 40,000 を數ふ。

9月30日發表

Modlin の開城後 Weichsel 川南方 Modlin 橋頭堡に在る將校 269, 下士官兵約 5,000 人が降伏し、火砲 58 門、機關銃 183, 其他多數の兵器を得た。

10月1日發表

Warschau 及 Modlin の明渡しが計畫通り行はれて居る。

10月2日發表

昨 1 日午前獨逸の先頭部隊は何等の支障なく Warschau に入城した。

Praga の占領は昨日終つた。

波蘭軍抵抗の最後の據點である防備を施し

第六 蘇軍の波蘭進駐

1939 年 8 月 23 日獨・蘇不可侵條約の締結の際既に獨・蘇間に波蘭領有に關し双互の間に契約が結ばれたことは判斷に難くない。

然るに當時蘇聯邦は極東に於て日本と Nomonhan に於て衝突中であつた爲に、獨逸の波蘭進駐に呼應して立つことが出来なかつたが、9 月 15 日停戰協定が出来た爲に忽ち其鋒先を西方に表はし、大兵を波蘭に進めた。

茲に獨・蘇兩軍は現地交渉によつて兩軍進駐の協定線を定め、Weichsel 川以東の獨逸軍は一時同河の西に撤収したが、次で獨逸外相 von Ribbentropp は飛行機で Moskau に赴き 9 月 24 日彼我の間に修交境界條約が成立され、茲に波蘭は第五次の分割の悲運に陥る事となつた。

其後 Wilna 地方は Litauen に Suwarki 地方は東 Preussen に割讓された。

此軍事行動に於て蘇軍の損害は死者僅かに

蘇聯邦の覺書は Moskau 駐在の全外國使臣に提示され、次いで新聞及ラヂオを通じて公表された。之によると蘇聯邦政府は今迄の波蘭の國家組織が崩壊し政府が逃避した爲に將に亂れんとしつゝある東波蘭の安寧秩序を兵力の進駐によつて恢復し且東波蘭に居る Ukraina 人及白露人に對する當然の保護を行はんとするのである。

2. 作戰經過に關する蘇軍の發表 (蘇軍は毎日發表しあらず)

9月17日發表

本早朝蘇聯邦の諸隊は北は Düna 川から南は Dniestr 川に至る全線に互り蘇波國境を通過した。

波蘭軍前哨の微弱な抵抗を撃破した後、北方に於ては Glebockie, Molodeczno 其の他の諸村を占領し、Baranowicze 方向に於ては Njemen 河を超えて Mir 及 Snow の兩部落竝に重要な鐵道連接點である Baranowicze を占領した。

737人、負傷者1359人、戦利品は火砲900門、飛行機300機、機關銃10,000、小銃300,000と發表せられた。

1. 波蘭に對する蘇聯邦の覺書

9月17日(土)夜 Moskau 駐割波蘭大使 Grzybowski に對し蘇聯邦政府の覺書が交付せられ

蘇聯邦政府は東波蘭に於ける自國の權益を擁護し、且白露及 Ukraina の少數民族を保護する爲に日曜日の朝 Moskau 時間の 06^z00' (中歐時間の 04^z00') を期して其の軍隊を國境を通過前進せしめるの餘儀無きものと認める。

旨を傳へた。蘇軍の前進は北 Polozk から南 Kamenz-Podolsk に至る全國境線に互り一齊に開始された。東波蘭に於ける蘇軍の前進は、一面に於て目下の紛争に對する蘇聯邦の中立を忘れずに行はれてゐる。此の時既に波蘭といふ國家の存在は事實上認むべくもなかつたから、蘇聯邦政府は從來波蘭と締結した諸條約を無効だと解釋して居るのである。

9月20日發表

20日中に蘇軍の諸部隊は益々波蘭軍を隘路内に壓迫し、遂に北方では西部白露に於て Grodno 市を、南方では西部 Ukraina に於て Kowel 及 Lemberg の兩市を占領した。

9月17日から20日に互る間に蘇軍の諸隊は波蘭軍歩兵3師團、騎兵2旅團及多數の小部隊の武裝を解除した。極めて不完全な報告に據れば60,000以上の敵の將兵が俘虜となつたとの事である。

Wilna, Baranowicze, Molodeczno 及 Sarny の築城地帯は全兵備、砲兵及彈藥も諸共其の儘占領した。

多數の戰利資材の中には今迄に280門の火砲と120機の飛行機とがある事が明かになつてゐる。

戰利品の算定は引續き行はれて居る。

獨逸政府及び蘇聯邦社會主義共和國聯邦政府は獨逸軍及び赤軍間の協定線を定めた。

之は Pissa, Narew, Weichsel 及び San の諸河川

西部 Ukraina に於ける蘇軍の前進は驚くべき神速さを以て行はれ、Rowno, Dubno, Tarnopol の諸市街は既に蘇軍の掌中に在る。

Kolomea に對する攻撃の結果、波蘭と羅馬尼との間の國境は既に大部分が蘇軍の諸隊に依つて遮斷された。

尙蘇軍の航空部隊は波蘭の戦闘機 7 機及同爆撃機 3 機を撃墜した。

9月18日發表

蘇軍の諸隊は引續き波蘭軍を撃退し、夕刻西部白露の北部に於ては Swienciancy 市, Lida 鐵道連接點, Novogrodek 市, Orlia 部落 (Njemen 河畔), Slonim, Wolkowysk 兩市及 Minsk—Brest-Litowsk 鐵道線上の Yaglewiezi 驛を占領した。

西部 Ukraina の南部に於ては Sarny 鐵道連接點及 Luck, Stanislaw, Halicz, Krasne 及 Buczacz の諸市を占領した。蘇軍の前哨部隊は Lemberg 及 Wilna に近接中。

を打破する際、本日 Langer 將軍の指揮する波蘭軍歩兵師團(6)及び獨立歩兵聯隊(2)は蘇軍に降伏した。

不確實ではあるが報告に依れば 9 月 17 日から 21 日に至る間に於て波蘭軍の將兵 120,000 を俘虜とし、380 門の火炮と 1,400 挺の機關銃を得た由である。

9 月 23 日發表

蘇軍の諸隊は 9 月 23 日朝獨逸軍及び蘇聯邦政府の劃定した協定線に向ふ前進を開始し、Stryj 及び Gorodok 兩市を占領し、更に Bialystok 西方の線に向ひ、Brest-Litowsk—Kowel—Wladzimierz—Wolynski—Lemberg 迄前進した。

西部 Ukraina 地方の掃蕩作戰間蘇軍の諸隊は波蘭軍の小部隊(複數)を Grodono 西北地方及び Brest-Litowsk 東北方に擊攘した。

不確實ながら報告に依れば 9 月 22 日 Kowel 東北方の波蘭軍の一集團を打破せし際 8,000 人以上の將兵を俘虜とし、且 2,000 の馬及び鐵道

に沿つてゐるものである。

9月21日發表

蘇軍の諸隊は9月21日中に前日到達した線にも亦築城を施した。

西部白露の占領地域及び西部 Ukraina に於ては波蘭軍の殘部を Kobrin—Luninez の線の南方に一掃し、蘇軍の諸部隊は 9月21日 19²⁰⁰ Pinsk 市を占領し、且 Lemberg 及び Sarny の要塞地帯から波蘭軍將校の集團を掃蕩した。

9月22日發表

西部白露に作戦中の蘇軍諸隊は9月22日 Bialystok 市竝に Brest-Litowsk 要塞を占領し、次いで Grodno の西北方 Augustowo の森林地帯から波蘭軍の殘部の掃蕩に著手した。

西部 Ukraina に於て波蘭軍を一掃すべき作戦任務を課せられた蘇軍の諸隊は Sarny 地方から將校の集團を掃蕩した。

Lemberg 地方に於ける波蘭軍諸部隊の抵抗

第七 戰 果

本卷に於ては作戰 10 月 1 日迄の記事を掲げたが波蘭作戰の山は作戰 9 月 18 日を以て全く決したものであつて、獨逸人が本作戰を**18日間の戰爭**と謂ふのも一理ある事である。

本作戰の成果は今更茲に記す迄もなく、獨蘇兩國は全く波蘭を併合し、獨逸は一先づ東方の脅威を除いて對英作戰の實施に乗出したのである。

而して本作戰に於て波蘭軍が文字通り全滅の悲運に陥つたのに對し、獨逸軍の損害は比較的少い。

1939 年 10 月 6 日 Hitler (10 月 5 日 Warschau で閱兵をした翌日)が伯林の國會で語る所によると、獨逸軍の損害は 9 月 1 日乃至同 30 日間に陸海空軍を合し

戰死	10,572
負傷	30,622

輸送中の戦闘資材若干を得たとのことである。

9月27日發表

蘇軍の諸隊は協定線に向ふ前進中 Grabow (Augustow 西方15km), Masovetsk, Drogichin, Krasnostaw の諸市, Zawada 驛 (Zamosc 西方十軒), Krakowets, Mosciska 及び Sianki 驛 (San 河の水源地附近)を占領した。

尙西部白露西亞及び西部 Ukraina 地方からの波蘭軍殘部の掃蕩作戰が繼續された。

附 錄

と述べて居る。

さるにても人口三千萬,平時30師團を擁した
波蘭が忽ちの間に滅び去つた事實は,軍事上だ
けでも大いなる教訓を與へるものである。

513.01

513.02

513.03

513.04

第一 波蘭の地勢其他

A. 廣 さ

波蘭は廣さ 388,390 km, 其位置は

北緯 $55^{\circ}51'$ — $47^{\circ}43'$

東經 $15^{\circ}47'$ — $28^{\circ}26'$

の間に在る。海岸線は東海に臨む 146km だけで 5,390 km は陸上で隣國と接し、而も其大部は獨逸から包圍されて居る。

B. 地 勢

地勢は南國境は標高概して 2,000m 内外の所謂 Karpaten 山脈が概して東西に走つて南に對して大なる障壁を成して居るが、之から北方に行くに従ひ、標高は急に下つて所謂波蘭の大平原をなして居る。

今度の作戰で有名になつた San 川河口西北側に在る Lysa Gora 山地すらも標高 400—500m に過ぎないのである。即ち波蘭全土の約 87% は中部波蘭の大低原であると云はれて居る。

土質は波蘭平原では砂質粘土質で農耕に適して居るが、道路は概して悪い。又東部の Prippet 川の廣大な流域は一大沼地である。

商業の實權(70%)は猶太人の手に在った。

次に參考の爲住民を各種職業別に示すと次の如くなる。

農業	65.6%
鑛山及工業	13.7%
商業	6.3%
交通	3.3%
其他	11.1%

D. 交通

川の大部は舟の便があり、舟行可能全長 6,685km に及び、其内 Weichsel 川水系は 2,780km に及んで居る。而も各河川共運河によつて互に連絡されて居る。

鐵道の全長は 170,000km に達し、施設も相當の域に達して居る。其他に狹軌の鐵道 2,273km を有して居た。

道路は幹線道路でも舗裝が不十分で、一般の道路は特に雨天には泥濘膝を没する位になる事は普通の事である。

E. 人民

總人口 29,600,000 人である。

然し色々の人種から成つて居る事は波蘭の大なる。

今試みに波蘭の主要都市の標高を記して地勢の
大要を知る参考とする。

Krakau	220m
Lemberg	338m
Lods	213m
Warschau	125m
Posen	60m
Lomza	130m

河川は Weichsel 川を主とし、其支流 Bug, Narew, Bzura, San 等が有名である。其他 Warthe, Prippet 川も著名であり、何れも舟運の便大である。従つて水量の多い夏には徒渉は概して不可能である。

Weichsel 川は Wisla と云ひ全長 1,068km で、河幅は Krakau 附近約 170m, San 河口附近 400m—1,000m, Warschau 附近約 400m, Thorn 附近から下流は概して 400m である。

C. 産 業

産業の主體は農業である。

礦産の主要なるものは上部 Schlesien の石炭及鐵と Lemberg 附近の石油である。

商業は上部 Schlesien 附近の重工業と Lods 附近の紡績工業等である。

第二 獨逸及ソヴェート社會主義共和國聯邦間の不可侵條約

獨逸國政府及ソヴェート社會主義共和國聯邦政府は、獨逸及ソヴェート社會主義共和國聯邦間の親善關係を鞏固ならしめんと希望及 1926 年 4 月獨逸及ソヴェート社會主義共和國聯邦間に締結された中立條約の基礎條項に基き、下記の様な協定を結ぶに至つた。

第一條

兩締約國は單獨なると他の諸國家と協同するとを問はず、各他方に對し如何なる暴力行爲、攻勢的動作及攻撃をも行はないことを約す。

第二條

締約國の一方が何れかの第三國の戰爭行爲の對象となる虞れある場合に於ては締約國の他方は形式の如何を問はず此の第三國を援助しない。

第三條

兩締約國政府は共通の利害に關する諸問題に就いて通報し合ふ爲將來引き續き協議し、互に連絡を保持する。

第四條

兩締約國は何れも間接或は直接に締約國の一方を

弱味とされて居た。即ち、

波蘭人	約 18,000,000 (69.2%)
Uklaina 人	3,900,000
白 Rosia 人	106,000
獨逸人	1,060,000
猶太人	2,110,000

宗教は大部分羅馬舊教である。

波蘭人は概して浮薄輕佻驕慢で音樂を好み、懦弱で尙武の氣性に乏しい。

第三 獨蘇國境及友好條約

獨逸國政府及「ソヴェート」社會主義共和國聯邦政府は從來の波蘭國の崩壞に従ひ、此の地方に於ける安寧及秩序を回復し、且該地に居住する人民の爲に夫々の民族性に應ずる平和な生活を保證するを以て専ら各自の任務と考へ、之が爲兩國は次の様に意見が一致した。

第一條

獨逸國政府及ソヴェート社會主義共和國聯邦政府は舊波蘭の國土に於ける兩國權益の境界として別紙地圖に記入してあり、且完成した文書に一層詳細に記入せらるべき線を決定する。

第二條

兩國は第一條に定めた兩國權益の境界を絶對的のものと認め、且此の取り極めに對する第三國(複數)の介入は如何なるものと雖も拒絶する。

第三條

政治上必要な新しい取り極めは第一條に記した線以西の地域に於ては獨逸國政府が、同線以東の地域に於ては「ソヴェート」社會主義共和國聯邦政府が擔任する。

對象とする國家の集團には參加しない。

第五條

何等かの問題に關し締約國間に戰爭或は紛議を生ずる虞れ有る場合には兩國は之等の戰爭若くは紛議を専ら友好的な意見の交換に依るか、要すれば調停委員に依つて解決する。

第六條

此の條約は締約國の一方が期限満了の一年前に條約の破棄を豫告しない限り本條約の有効期間は更に五箇年延長するものとの條件の下に十年の期限を以て締結する。

第七條

此の條約は成る可く速かに批准を経る。批准文書は伯林に於て交換することにする。條約は署名と同時に直ちに效力を發生する。

原文は獨逸語及露西亞語の兩方を以て作る。

1939年8月23日 Moskau にて

獨逸國政府を代表し

Ribbentrop 署名

ソヴェート社會主義共和國聯邦政府全權委任の下に

Molotow 署名

る旨を表明するものである。

故に兩國政府は一致協力し、要すれば親善關係に有る他の諸國の賛同を得て極力速かに此の目的を達成す可く努力を拂ふであらう。

然るに拘はらず兩國政府の努力が徒勞に終るものとすれば夫れは戦争の繼續に對する責任が英國及佛國に有る事實を確認するものであらう。斯くの如くにして戦争が繼續せらるゝ場合に於ては獨逸及「ソヴェート」社會主義共和國聯邦政府は所要の處置に關し相互に協議する所があるであらう。

1939年9月28日 Moskau にて

獨逸國政府を代表し

v. Ribbentrop

「ソヴェート」社會主義共和國聯邦政府全權委任の下に

W. M. Molotow

第 四 條

獨逸國政府及「ソヴェート」社會主義共和國聯邦政府は上記の取り極めを以て兩國民間の親善關係を絶えず増進せしめる爲め堅確な礎と看做す。

第 五 條

此の條約は批准を経べく、且批准文書は成る可く速かに Berlin に於て交換する。

條約は署名と共に效力を發生する。

原文は獨逸語及露西亞語の兩方を以て作製する。

1939年9月28日 Moskau に於て

獨逸國政府を代表し

v. Ribbentrop

「ソヴェート」社會主義共和國聯邦政府全權委任の下に

W. M. Molotow

平 和 宣 言

獨逸國政府及「ソヴェート」社會主義共和國聯邦政府は本日署名を了つた條約に依り波蘭國の崩壞に關して生じた諸問題を根本的に解決し、東歐羅巴に於ける恒久の平和の爲基礎を築いた。此の時に當り、共に俱に目下獨逸對英佛間に生じて居る戰爭狀態を終結せしめ、以て全世界諸民族の眞實の利益を圖るの用意あ

第四 對波蘭作戰間獨逸各種飛行隊の 活動の一例

A. 某偵察中隊

- (1) 16日間に97回出動
- (2) 飛行距離82,000km以上(一回に6時間以上飛行)
- (3) 寫眞600を寫す。其内
 - 飛行場 10
 - 橋 15
 - 停車場 18
 - 鐵道線路 320km (道路はそれ以上を寫す)
- (4) 敵高射砲射撃を受けること 41回
敵驅逐機の攻撃を免れること 9回

B. 某爆撃戰隊

- (1) 18日間に48回出動
- (2) 投下爆彈 403,350kg 射彈 124,275發
- (3) 爆撃目標
 - 飛行場 2回
 - 橋 2
 - 築城 5
 - 停車場、鐵道及道路上の輸送 27

飛行機庫 5 (此際地上飛行機 53 を破壊)

敵の抵抗巢 38

放送局 2

(3) 地上戦闘参加

Kutno, Sochaczew 附近の戦闘参加 3

Modlin 附近の戦闘参加 10

Warschau " 8

e. 地上軍直接協力の爲に地上目標 15

(4) 飛行回数の半数は低空飛行をした。飛行の爲に多少の損害を受けたが、短い時間で恢復し、再び出發した。

(5) 敵機 5 機を擊墜した。

C. 遠距離戦闘戦隊

(1) 12 日間に 59 回出動

(2) 18 回空中戦を交へ、波蘭軍飛行機 30 機を空中戦で擊墜

(3) 其他 8 回低空飛行で地上部隊を攻撃

8 回低空飛行で鐵道を攻撃し、6 列車に火を起させ機關車 35 を破壊す。

D. 急降下爆撃戦隊

(1) 9 月 1 日—27 日間に出動 49 回、爆撃目標 58 箇所

(2) 爆撃成果

橋の破壊 16

停車場破壊 5

破壊線路數 12 (之により機關車 120, 車輛 875 輛を立往生せしめた)

列車破壊 44 (其内装甲列車 1, 石炭列車 4)

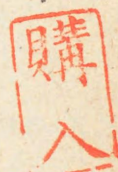
第五 對波蘭作戰間ヒットラーの行動圖



3438

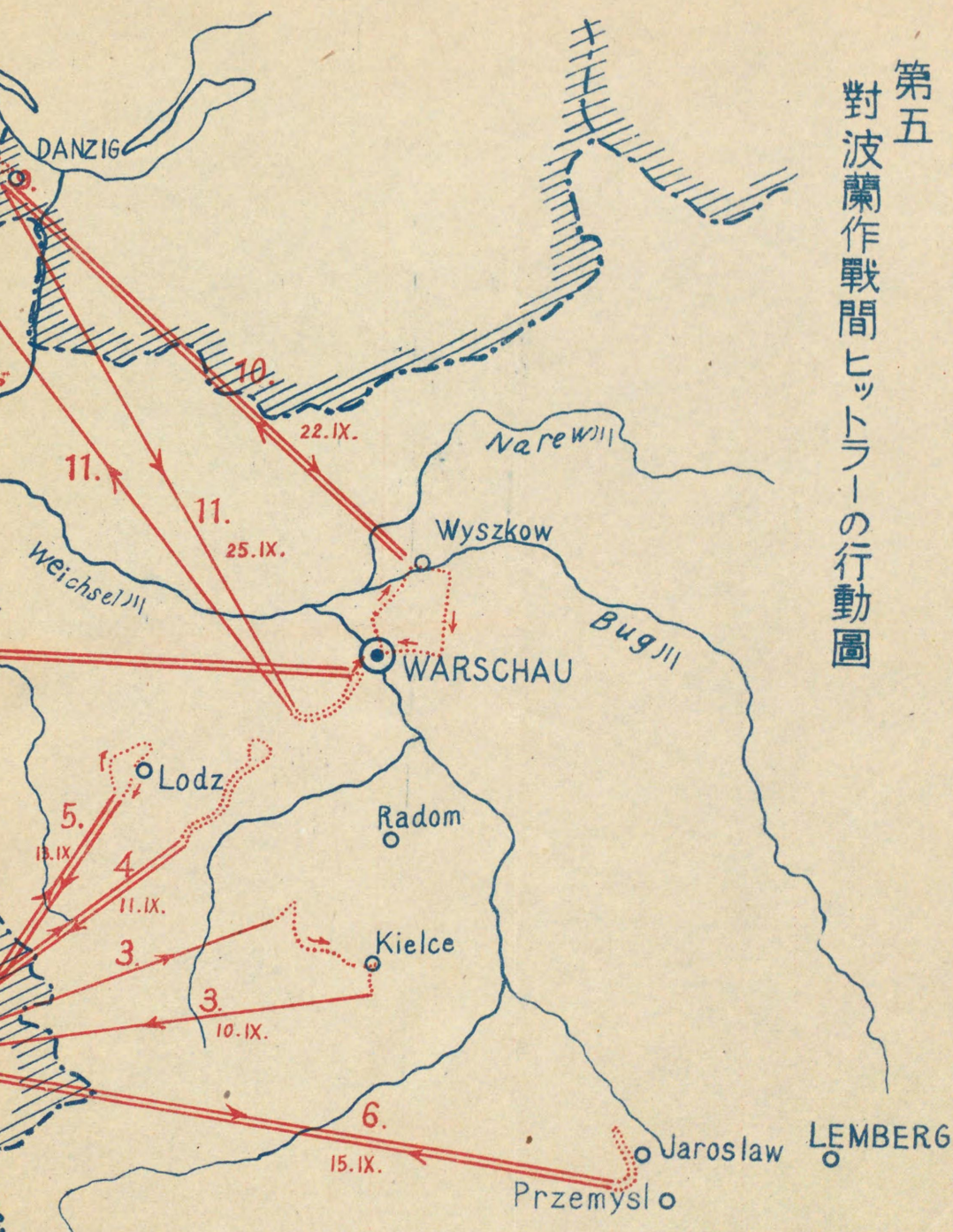
19

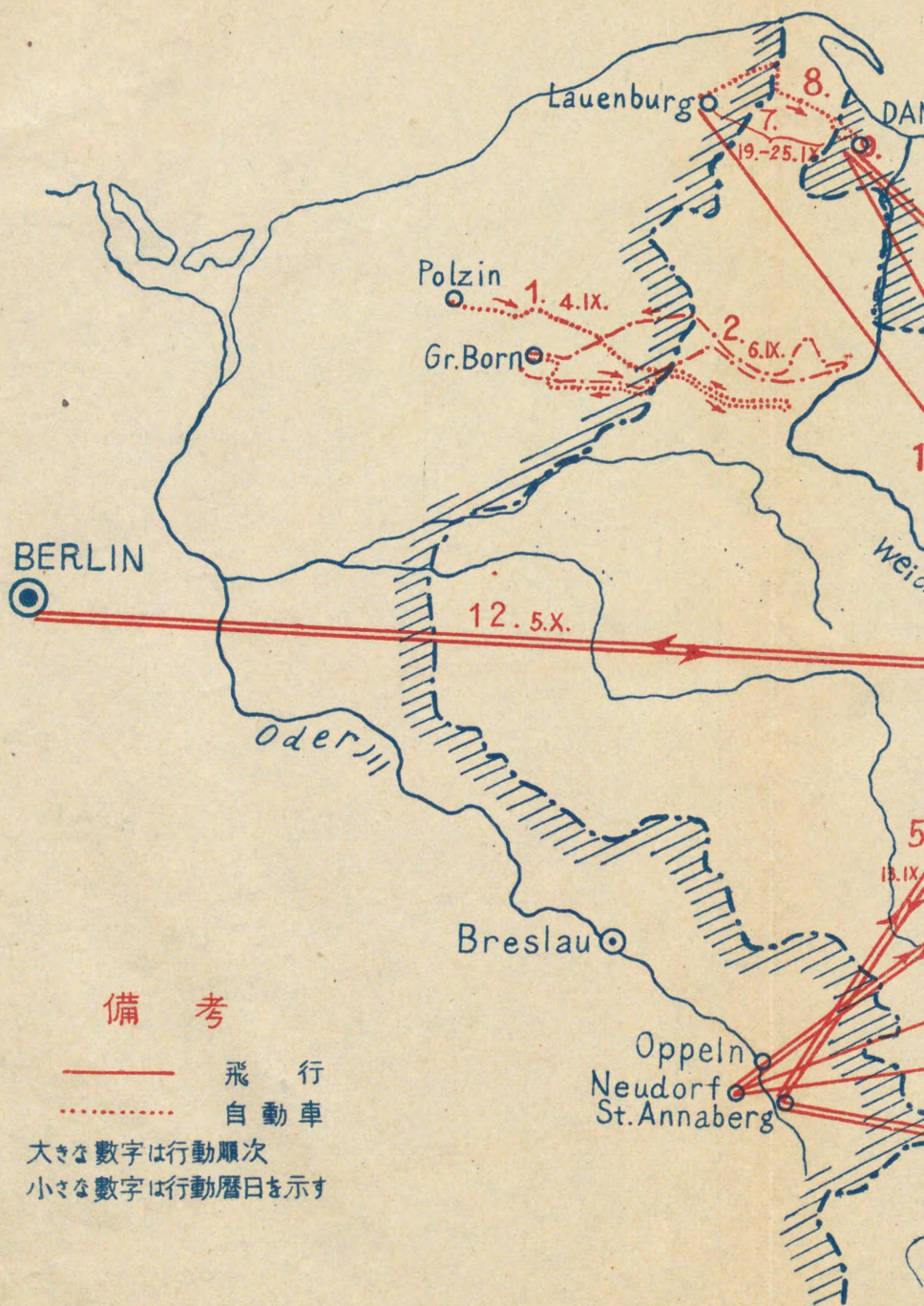
46788



第五

對波蘭作戰間ヒットラーの行動圖





備考

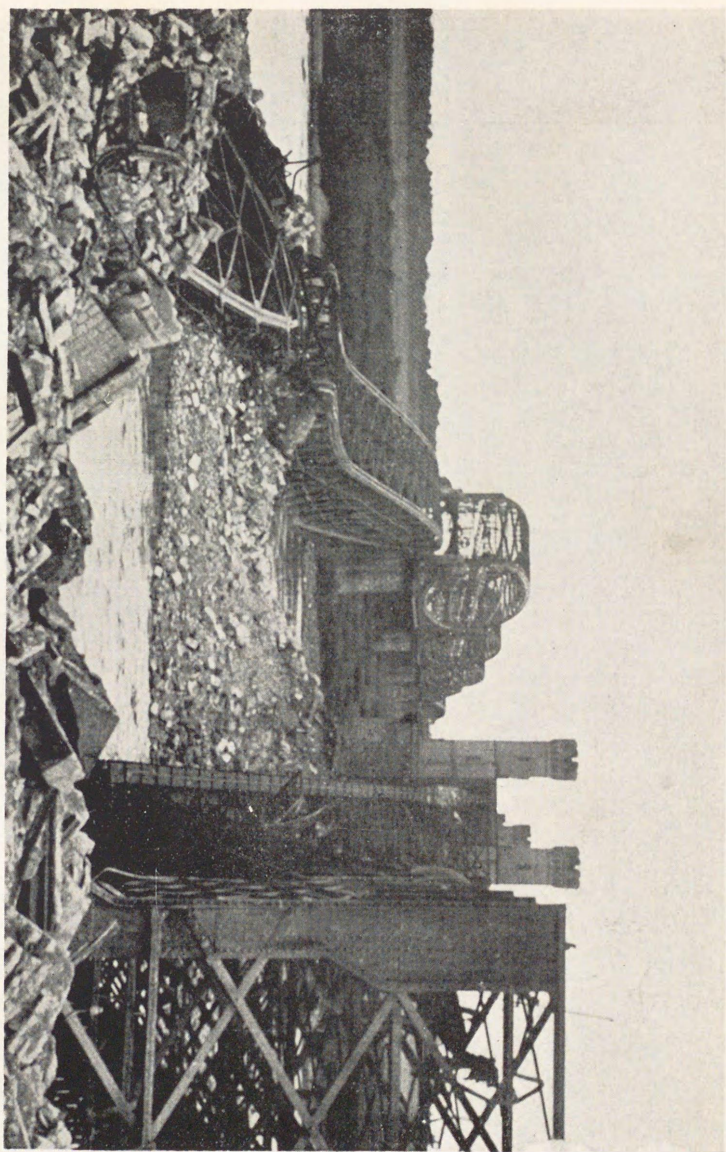
- 飛行
- 自動車

大きな数字は行動順次
 小さな数字は行動暦日を示す

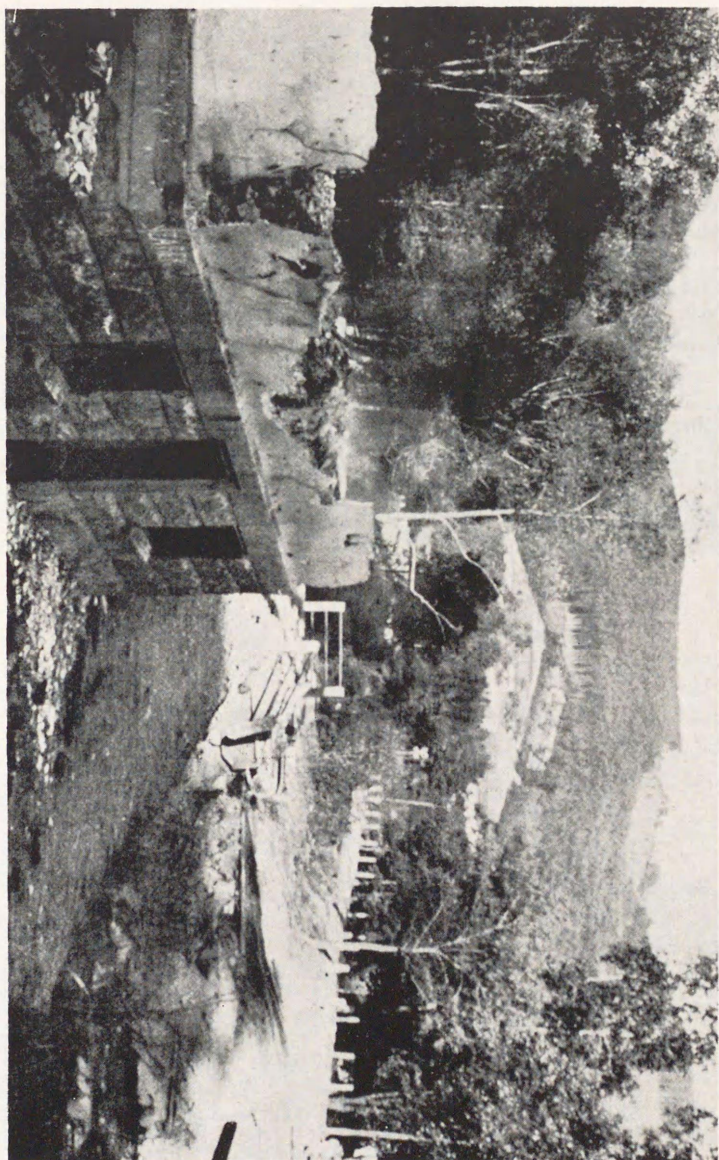
第六 參考書目

- Der Feldzug der 18 Tage*Rolf Bathe*
- Unsere Flieger über Polen.....*4 Frontoffizier*
- Der grossdeutsche Freiheitskrieg.....*Theo von Zeska 少佐*
- Der polnische Feldzug*Rudolf Schauß*
- Auf den Strassen des Sieges*Otto Dietrich*
- Luftwaffe schlägt zu*Peter Supf*
- Der Sieg im Osten*Friedrich Heiss*
- Der Feldzug in Polen.....*Paul Gölder 中將*
- Mit Mann und Ross und Wagen.....*Wulf Bley*
- Schlag auf Schlag*H. Eichelbaum*
- Hitler in Polen.....*Heinrich Hoffmann*
- Blitzmarsch nach Warschau.....*Eugen Hadamowsky*
- Unser Kampf in Polen
- Das Oberkommando der Wehrmacht gibt bekannt
- Das war der Krieg in Polen*Rolf Heller*
- Der Sieg in Polen.....*Oberkommando der Wehrmacht*

(1) 波蘭軍自ら破壊した Dirschau (Danzig南側) の橋梁 (川は Weichsel)



(3) 破壊された橋梁 (Boskiden山地にて)



(2) 爆撃された波蘭某飛行場

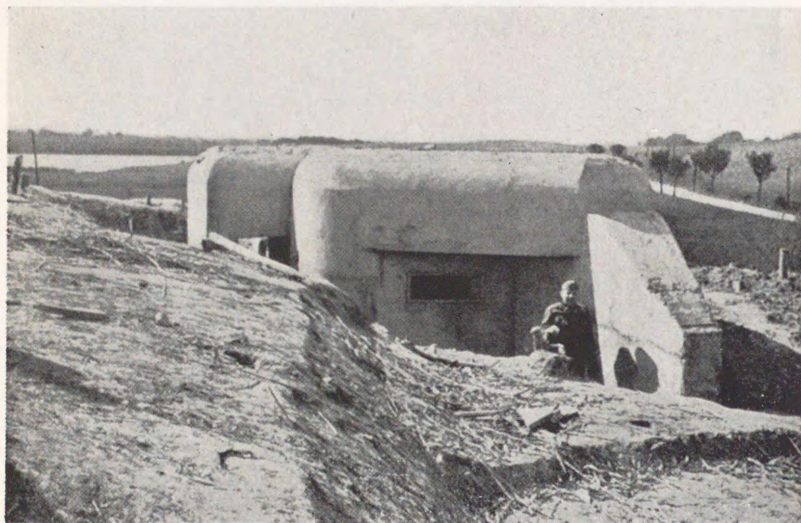


(5) Tarnow 附近 Dunajec 川 獨逸軍戰車隊の通過



(4) Bromberg 前面の波蘭軍陣地線

其 一



其 二



(7) Pultusk 附近 Narew 川



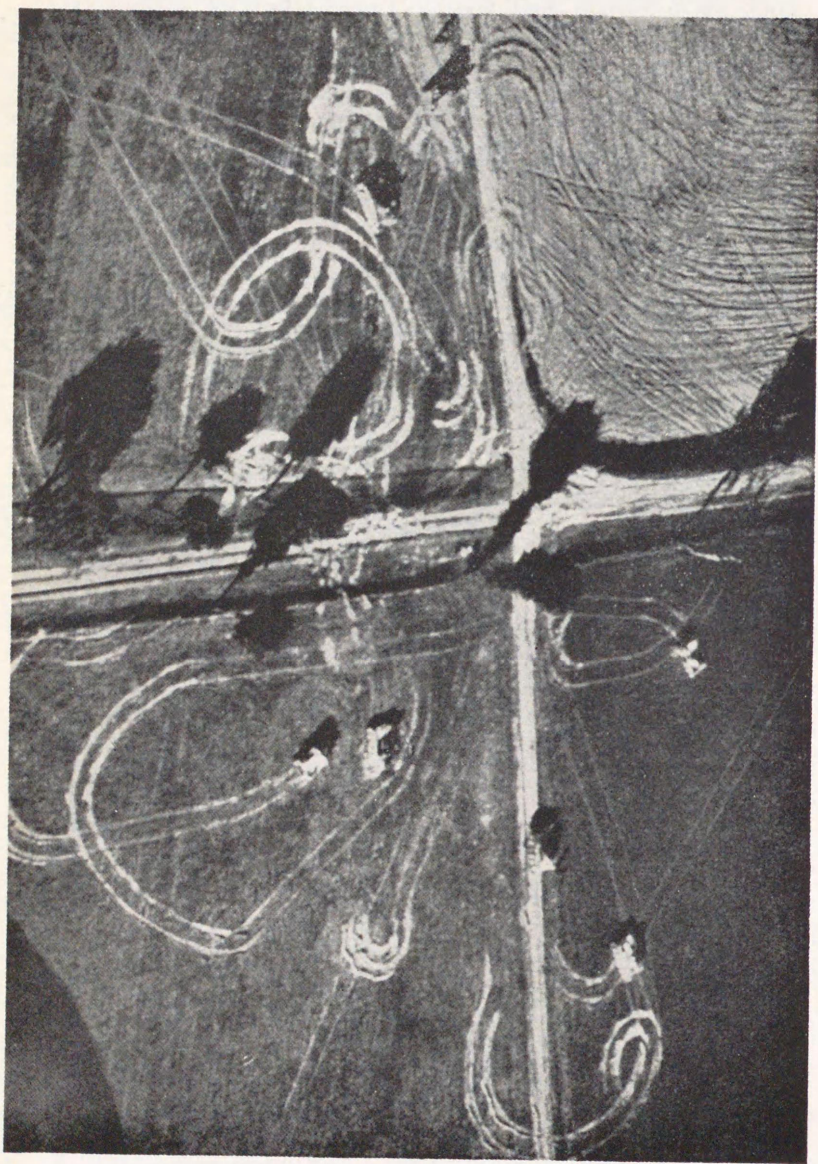
(6) Tucheler 荒地に於ける獨逸軍の待機



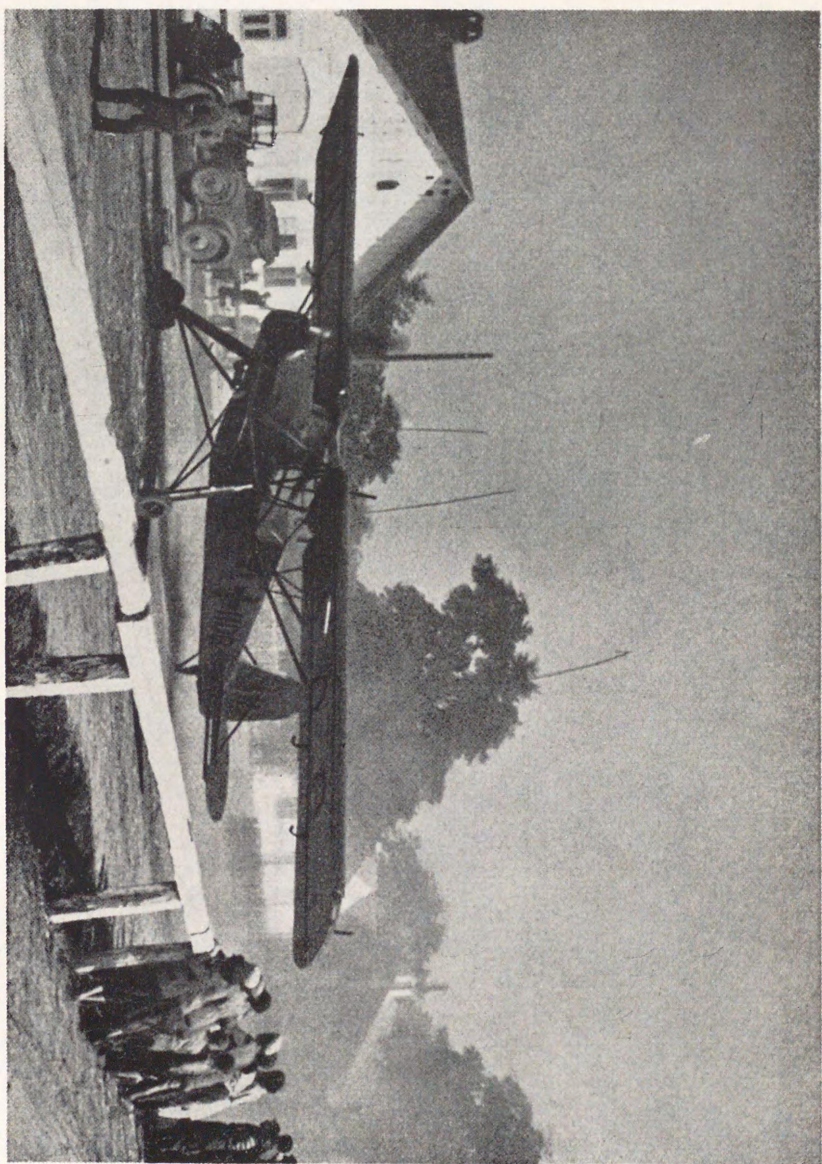
(9) Modlin 附近 Weichsel 川



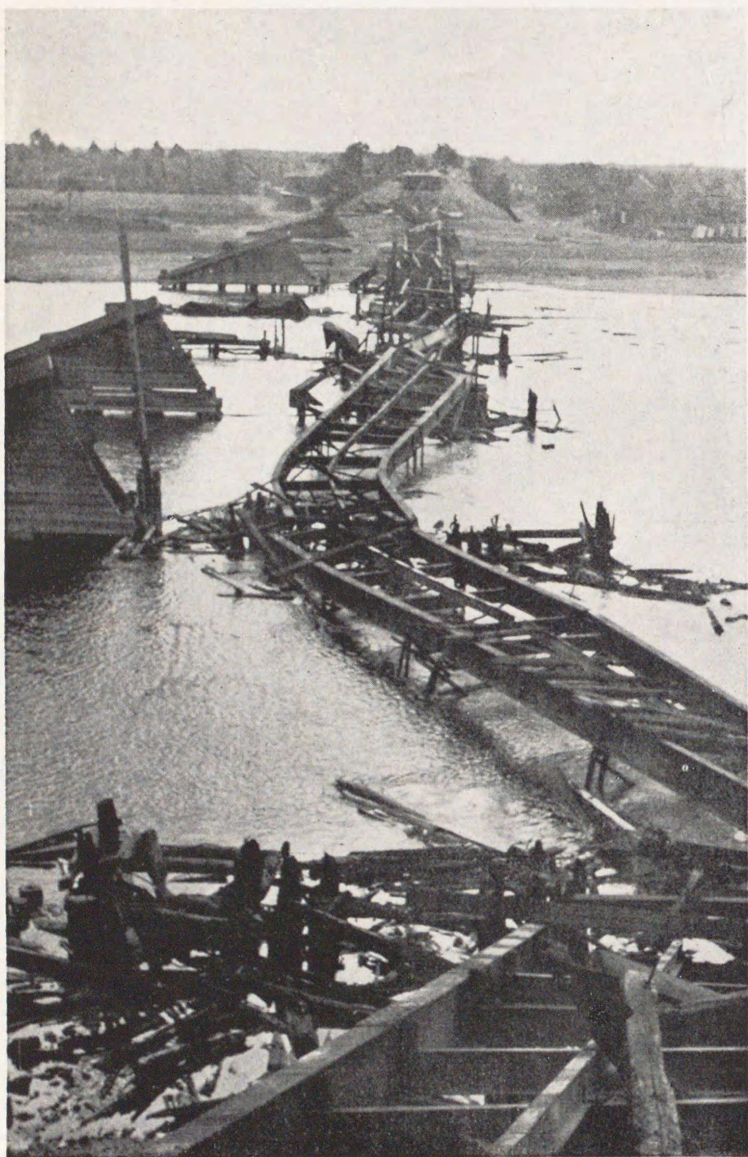
(8) 道路交叉點で戦闘中の獨逸軍戦車



(11) 獨逸軍低速度連絡機(俗にStorch即ち鶴の鳥と謂ふ) Rawa Ruskaの町内に著陸



(10) Wyshkow 附近 Bug 川

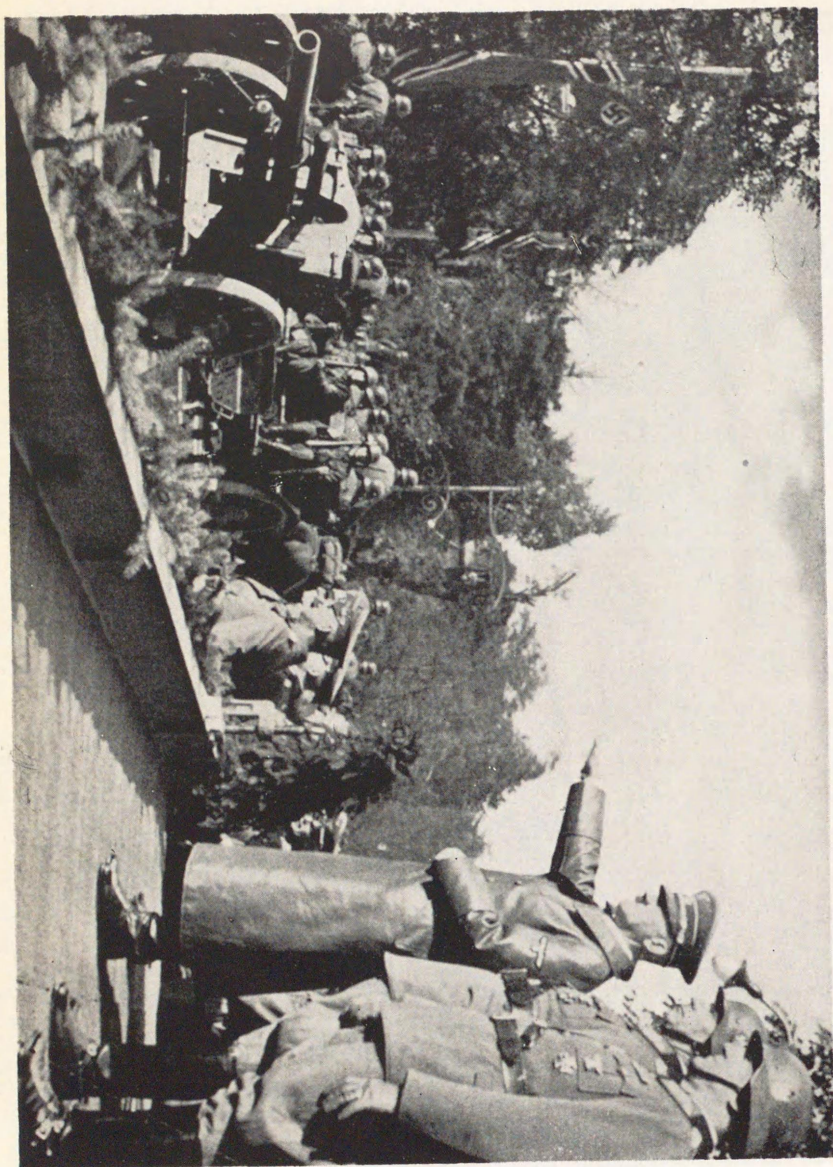


地名索引

(本表に記した地點は其座標によつて附圖波蘭全圖の上に求める事が出来る
尙獨逸語と波蘭語とによつて綴方に多少の相違ある事に注意)

A		Chelm	l — 8
Allenstein	g — 5	Chyrow	n — 7
Augustow	g — 7	Chechanow	h — 5
B		Coslin	k — 2
Baranowicze	h — 10	Czenstochau	l — 4
Berent	f — 3	Czernowitz	p — 10
Beskid	o — 6	D	
Beskid	n — 4	Danzig	f — 4
Beuthen	m — 3	Deblin	k — 6
Biala	k — 7	Dünaburg	d — 10
Bialystok	h — 7	Dirschau	g — 4
Bielitz	n — 4	Drohbycz	o — 8
Bilgoraj	m — 7	Dubno	m — 10
Brahe	g — 3	G	
Breslau	l — 2	Gdingen	f — 3
Brest Litowsk	k — 8	Gleiwitz	m — 3
Brieg	l — 2	Glogau	k — 1
Bromberg	h — 3	Gnesen	i — 3
Buczacz	o — 9	Gora Kalwarja	k — 6
Budapest	r — 3	Gorlice	n — 5
Bzura	i — 4	Grätz	i — 1
C		Graudenz	g — 4
Checiny	l — 5	Grodno	g — 8

(12) Warschau に於ける Hitler の閱兵



Mosciska n — 8

N

Nakel h — 3

Neu Sandez n — 5

Neustadt f — 3

Nowogrod h — 6

Nowogrodek h — 9

Nur i — 7

O

Obornik h — 2

Olmütz n — 2

Opoczow k — 4

Oppeln l — 3

Orlia h — 9

Osowiec h — 7

Ostrolenka h — 6

Ostrow i — 6

Ostrowo k — 3

Ozorkow k — 4

P

Pinsk k — 10

Piotrkow l — 4

Pissa g — 6

Pitschen l — 3

Pleß n — 3

Plock i — 4

Polozk d — 11

Pommern g — 1

Pressburg p — 1

Pripet i — 10

Przasnysz h — 5

Przemysl n — 7

Putzig f — 3

Pultusk i — 6

R

Radomsk l — 4

Radymno n — 7

Ratibor m — 3

Rawa k — 5

Rawa Ruska m — 8

Rowno m — 10

Rozan h — 6

Rzeszow n — 6

S

Skarzysko Kamienna l — 5

Sambor n — 7

Sarny k — 10

Sandomierz m — 6

Sanok n — 6

Schaulen d — 8

Schneidemühl h — 2

Sdunska Wola k — 4

Sianki o — 7

Siedlce k — 7

Siradz k — 3

Skierniewice k — 5

Slonim h — 9

H	
Halicz	o — 9
Hela	f — 4
Hindenburg	m — 3
Hohensalza	h — 3

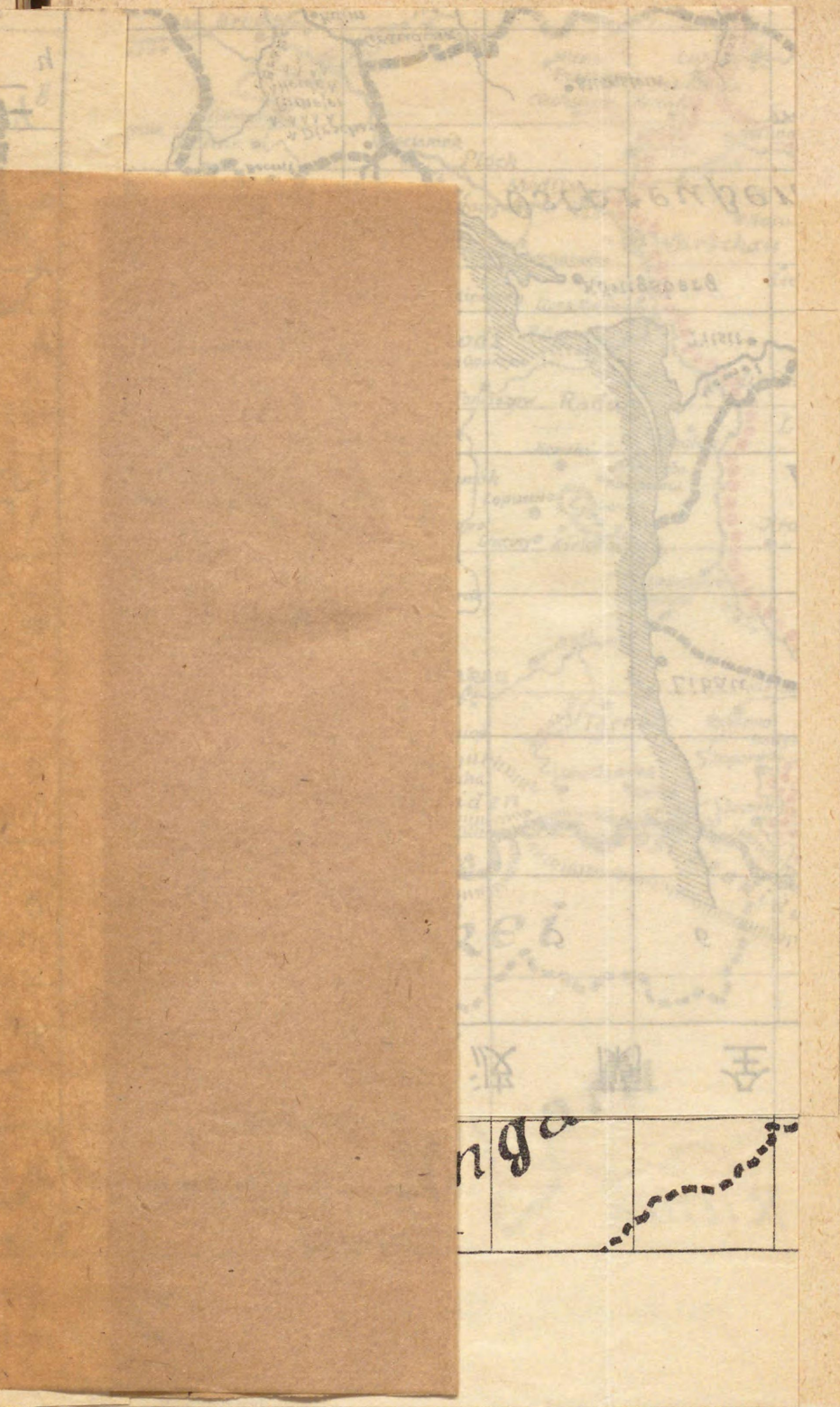
J	
Jablunka Paß	n — 3
Jawornik	n — 6

K	
Kalisch	k — 3
Karuszin	i — 6
Kamenz Podolsk	p — 10
Kamiensk	l — 4
Kattowitz	m — 3
Kempen	k — 3
Kielce	l — 5
Kobrin	i — 8
Kock	k — 7
Kolomea	p — 9
Königsberg	f — 5
Königshütte	m — 4
Koniopol	l — 4
Konski	l — 5
Koshmin	k — 2
Köslin	f — 1
Kosten	i — 2
Kowel	k — 9
Kowno	f — 8

Krakau	m — 4
Krasne	n — 9
Krasnestau	l — 8
Krasnik	l — 6
Kreuzburg	l — 3
Krotoschin	k — 2
Krystyropol	m — 8
Kulm	h — 3
Kuti	r — 9
Kutno	i — 4

L	
Lemberg	n — 8
Lenczica	i — 4
Libau	c — 6
Lida	g — 9
Lissa	k — 2
Lodz (Lods)	k — 4
Lomza	h — 6
Lopussno	l — 5
Lublin	l — 7
Luninez	i — 10
Lysa Gora	l — 5

M	
Mährisch-Ostrau	n — 3
Minsk	g — 11
Mir	h — 10
Mlawa	h — 5
Modlin	i — 5
Molodezno	g — 10



Snow	h — 10
Sochaczew	i — 5
Sosnowiec	m — 4
Stanislau	p — 9
Stasxow	m — 5
Stolp	f — 2
Strasburg	h — 4
Strelno	i — 3
Strij	o — 8
Suha	n — 4
Suwalki	g — 7
Swjenzjany	e — 10

T

Tarnopol	n — 10
Tarnow	n — 5
Tarnowitz	m — 3
Tatra	o — 4
Thorn	h — 3
Tilsit	e — 6
Tomaszow	k — 4
	m — 8
Treuburg	g — 7

Tschenstochau	l — 4
Tucheler Heide	g — 3

W

Wadowice	n — 4
Warschau	i — 6
Warta	k — 3
Wielun	l — 3
Wilna	f — 8
Wloclawek	i — 4
Wlodawa	k — 8
Wlodzimierz	l — 8
Wreschen	i — 3
Wolkowysk	h — 8
Wyskow	i — 6
Wyszogrod	i — 5

Z

Zamosc	m — 7
Zawiercie	m — 4
Zoppot	f — 4
Zuck	m — 9
Zwolen	l — 6



Snow	h — 10
Sochaczew	i — 5
Sosnowiec	m — 4
Stanislaw	p — 9
Stasxow	m — 5
Stolp	f — 2
Strasburg	h — 4
Strelno	i — 3
Strij	o — 8
Suha	n — 4
Suwalki	g — 7
Swjenzjany	e — 10

T

Tarnopol	n — 10
Tarnow	n — 5
Tarnowitz	m — 3
Tatra	o — 4
Thorn	h — 3
Tilsit	e — 6
Tomaszow	k — 4
	m — 8
Treuburg	g — 7

Tschenstochau	l — 4
Tucheler Heide	g — 3

W

Wadowice	n — 4
Warschau	i — 6
Warta	k — 3
Wielun	l — 3
Wilna	f — 8
Wloclawek	i — 4
Wlodawa	k — 8
Wlodzimierz	l — 8
Wreschen	i — 3
Wolkowysk	h — 8
Wyskow	i — 6
Wyszogrod	i — 5

Z

Zamosc	m — 7
Zawiercie	m — 4
Zoppot	f — 4
Zuck	m — 9
Zwolen	l — 6

全



7

8

9

10

11

Lettland

Schaulen

Dünaburg

Litauen

Polozk

Swjenzjany

Korono

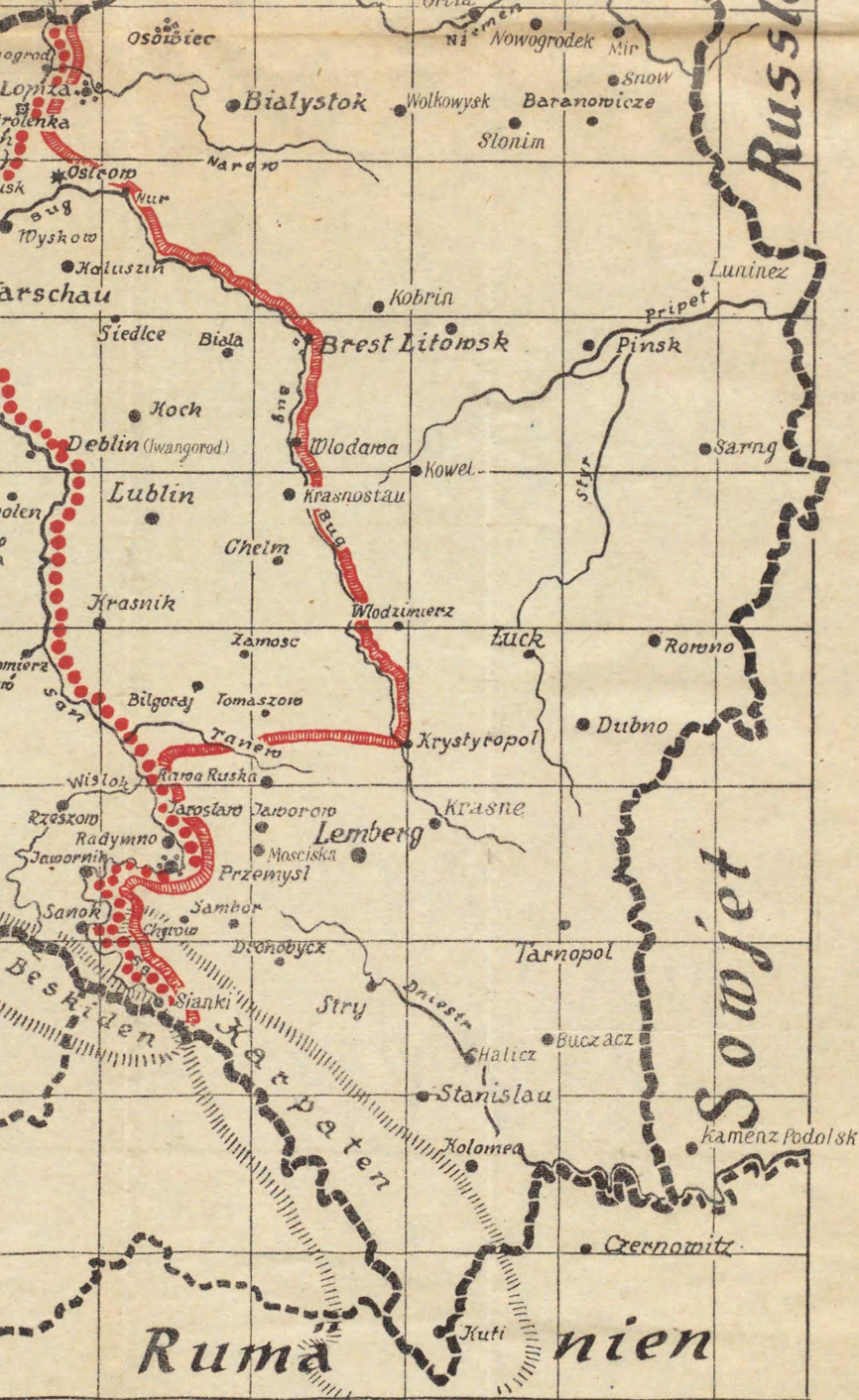
Wilna

Wilisa

Ben

波 蘭 全







獨蘇協定線



獨蘇新國境線

昭和十六年一月五日印刷
昭和十六年一月十日發行



陸軍大學校將校集會所

代 表 者 沖 靜 夫

東京市麴町區六番町十一番地

發 行 兼 者 前 田 岩 太 郎

東京市麴町區五番町十二番地

印 刷 所 干 城 堂 出 版 部 印 刷 所

S
S
S
S
S
S
S
S
S
S
T
T
T
T
T
T
T
T

